

可認局遞驛

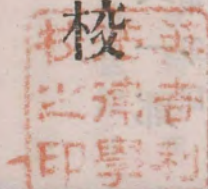
明治二十年二月廿六日發兌

第壹年級

英吉利法律講義錄

第二拾四號

英吉利法律學校



目次

○組合法

(續キ第二十二號)

法學士

松野貞一郎
畔上啓策筆記

○刑

法

(續キ第拾九號)

法學士

江木衷
畔上啓策筆記

○羅馬法

(續キ第二十二號)

法學士

澁谷慥爾
畔上啓策筆記

○新年宴會祝詞

組合法

執行スル爲メニ正當ニ費シタルモノハ悉ク之レカ賠償ヲ受クルノ權

執行スル爲メニ正當ニ費シタルモノハ悉ク之レカ賠償ヲ受クルノ權アリトス

之レニ反シテ信任受托ノ義務ヲ怠リタルヨリ生スル所ノ損害ハ委託者ノ追認ナキ限りハ凡テ之レヲ求ムルヲ得サルモノトス之レヲ要スルニ受托者ハ其信任ノ受托物件ヲ處分スルニ缺ク可カラサル必要アリテ釀シタル損害ニ付テハ之レヲ要求スルノ權アルモノナリ蓋シ如何ナル所爲カ受托物件ヲ處分スルニ缺ク可カラサル所爲ナルカヲ決スルニハ委託人ノ特命アルトキハ別ニ論ナシト雖モ特命ナキ時ハ其物件ノ性質信任委託ノ方法等ニ由リ法律上相當ノ推定ヲ爲ス可キモノナルコトハ恰モ代理人ノ權限明確ナラサルトキ從來ノ慣行世間ノ振合事柄ノ性質等ニ由リ之レヲ決スルト同様ノコトナリトス

第貳拾回

組合員賠償權ヲ論ス

組合員賠償權ノコト

賠償ニ關
スル組合
員ノ地位

賠償ニ關
スル組合
員ノ地位

Directors of Companies.

商社ノ支配
地位

是ヨリ組合員カ相互ノ間ニ於テ賠償權ノ行ハル、コトヲ論ゼンニ先
 ツ組合員ハ一人ニテ本人タリ代理人タルノ資格ヲ或ル程度ニ至ルマ
 テ有スルモノトノコトニ注目セサル可カラス故ニ組合員ハ組合ノ負
 債及ヒ取引ニ付キ世間ニ對シ本人トシテ其責ヲ負フコトアリテ若シ
 一人ニテ之ヲ尽シタルトキハ他ノ組合員ヨリ賠償ヲ受クルノ權アル
 モノトス蓋シ一人ニノミ負擔ヲ歸セシムルヲ得サル組合員互ノ義務
 アルカ故ナリ又各組合員ハ組合ノ代理トシテ働クガ故ニ組合ノ爲メ
 ニ相當ノ職權内ニ於テ行フタル事柄ニ付損失又ハ入費ヲ醸ストキハ
 其賠償ヲ組合ヨリ請求スルコトヲ得ルナリ之レニ反シ若シ組合員カ
 己レノ怠慢不熟練又ハ越權ナドニヨリ損失ヲ被リタルコトアルモ組
 合ニ對シテ之レヲ求ムルヲ得サルハ勿論ノコトナリトス

商社ノ支配人モ亦組合員ト同シク商社ノ社員即チ本人タル資格ヲ以

テ商社ノ爲メニ支拂フタル負債ニ付テハ其賠償ヲ受クルノ權アリ商社ノ代理人又ハ信任委託者即チ支配人タルノ資格ヲ以テハ其委託上醸シタル所ノ入費及ヒ損失ニ付商社ヨリ賠償ヲ受クルコトヲ得ヘキナリ然レトモ又支配人タル者其職權ヲ越ヘ爲メニ損失ヲ起スコトアルモ此等ノ損失ハ商社ノ追認スルニアラサル以上ハ決シテ賠償ヲ求ムルヲ得サルナリ但此組合ト雖モ數人ノ支配人アル場合ニ於テ一人ノ支配人カ他ノ支配人ヨリ賠償ヲ受クルハ自ラ別問題ニシテ假令越權ノ所爲ナリトモ一人カ他ノ同役ノ承諾ヲ經テ爲シタルトキハ其損失ヲ商社ヨリ求ムルヲ得サル可キモ同役中ヨリ賠償ヲ受クルハ此限ニアラサルナリ

此等ノコトニ關スル判例ハ次ニ講述セシカ之レニ先立チ商社ノ支配人カ誠意ニ充分ノ注意ヲ加ヘテ商社事業ノ爲メニ金圓ヲ費用シタル

トキハ假令其支配人ハ金圓借入ノ權ナク支配人ノ借入レタル金圓ニ付テハ商社其責ニ任セサル場合ト雖モ尙支配人等ニ對シテハ商社ヨリ其支出金ヲ賠償スルノ義務アルヤ否ノ場合ニ付論述セントス此事項ノ判例ヲ舉クレハ「シヨルマンマイニンゴコンパニト」ノ訴件ニシテ其事實ノ概畧ヲ舉クレハ茲ニ鑛山ヲ營業トスル一社アリ鑛山ノ破壊ヲ防キ保存ヲ計ラントスルニハ是非トモ採鑛ノ事業ニ着手セサルヲ得サル場合ニ際シ其支配人ハ金圓借入ノ權力ヲ有セサルニモ拘ハラズ他ヨリ金圓ヲ自己ノ名義ニテ借入レ其金ヲ以テ採鑛ニ着手シ僅ニ鑛山ノ破損ヲ防キタリ株主ニ於テハ此等支配人ノ處置ヲ見聞シタルトモ當時何等ノ故障ヲモ言ハサリシ其判決ニ商社ハ右支拂人ノ借入レタル金額ヲ支配人ニ辨償スルノ義務アリト判定セラレタリ又或訴件ニ於テハ商社ノ定款中金圓借入ノトキハ社ノ所有ノ土地ヲ抵當ト

爲ス可シトアリテ單ニ支拂人ニ金圓借入ノ權ヲ許サ、ルニモ拘ハラ
 ス支配人ハ或銀行ヨリ金圓ヲ借入レ社ノ事業ニ使用シタル場合ニ於
 テ其金圓ハ社ヨリ支配人ニ辨償ス可キモノナリト判定セラレタリ
 此等ノ判決ハ其理由トスル所支配人ハ獨リ商社ノ代理人タル資格ヲ
 有スルノミナラス尙信任委託者タルノ資格ヲ俱有スルカ故ニ其委託
 ノ範圍内ニ於テ商社ノ爲メニ誠意ニ金圓ヲ借入ル、如キハ正當ニ爲
 シ得ヘキコトニシテ固ト商社ハ金圓借入ノ權ヲ支配人ニ任セザルカ
 故ニ貸主ニ向ヒ直チニ其義務ヲ負ハサルモ支配人ニ對シテハ賠償ノ
 義務ヲ盡サ、ル可カラスト云フニ在リ然レトモ此理由ハ果シテ法律
 上其當ヲ得タルモノナリヤ否ニ付テハ少シク疑ナキ能ハス
 抑、已ニ代理人トシテ越權ノ所爲ナラハ何故ニ信任委託者トシテモ仍
 ホ越權ニアラサルカ是レ解シ難キノ一點ナリトス又何故ニ株主即チ商

社ハ其責任ノ定限ヲ立テシテカ爲メニ特ニ支配人ノ權限ヲ規定シ置キタルニ支配人ハ之レニ背キ其權限ヲ越ヘ株主ノ許サ、ル借金ヲ爲ス如キハ之レヲ委托ノ義務ニ背キタルモノト云フヲ得サルカ果シテ前ノ理由ヲシテ其當ヲ得セシメハ株主ハ何程其責任ノ制限ヲ立テントスルモ支配人ニ對シテハ更ニ其甲斐ヲキカ如キ不都合ヲ見ルニ至ラシ是レ決シテ取ル可キノ理ニアラサルナリ然レトモ前ノ理由ノ外尙之レヲ確カムル說ニ曰ク凡ソ支配人ノ支出シタル金圓ノ爲メニ商社利得ヲ受クルニ於テハ其恩波ハ自然ニ株主ニ及フカ故ニ若シ亦不幸ニシテ損失生シタルトキハ株主ニ於テハ此損失ヲ負擔ス可キハ正當ナラスヤ然レトモ是レ皮想ノ見ニシテ未ダ以テ盡シ得タル說トナスヲ得ス何トナレハ支配人ハ株主又ハ商社ノ承諾ヲ經テ支出シタルコトナレハ此事ヲ承認スルト否トハ商社又ハ株主ノ權内ニシテ決シテ

主義ハ道德ト公衆トニ基キタルコトヲ告クルノミ今一例ヲ擧ケテ之
レヲ説カンニ我刑法ニ於テハ水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シ
タル者ハ田野ニ於テ穀類菜菓等ヲ竊取シタルモノヨリ其刑ノ重キコ
ト凡ソ五倍トセリ水火震災ニ際シテハ人々其ノ財産ヲ保護スルノ方
法ヲ設クルニ暇アラス其ノ財産ハ之ヲ公衆ノ信義ニ委スルヲ以テ法
律ハ公益上ヨリ此等ノ財産ニ對スル犯罪ヲ重シトセシニ由ル乎田野
ノ產物モ亦是レ公衆ノ信義ニ委テ人々常ニ之ヲ保護スルノ方法ヲ設
ケサルモノナリ公益上ヨリ之ヲ言ハ、法律ノ彼レニ厚フシテ此ニ薄
キノ理由アルヘカラス水火震災ニ乘シテ財物ヲ竊取スルモノハ其心
術之ヲ平日ニ行フニ忍ヒサルモノアルニ出ツ道德上ヨリ之ヲ言ハ、
其罪甚タ輕シト云ハサルヲ得ス法律ハ特ニ之ヲ嚴罰スルノ理由アル
可ラス白晝田野ノ菜菓ヲ竊ムモノト豈ニ彼此アラシヤ論シテ茲ニ至

第一編 總則

第一章 法例

日本ノ文字ノ上テ法例ト云フ語ヲ解スルコトハ甚タ六ヶ敷シ様ニ思
 ハル、コトナレトモ此レハ法律ノ適用ト云フコトナルハ佛文ニ譯シ
 タル日本刑法ノ文字ヲ以テ明カナルコトナリ學者ハ法例ノ關スル所
 ハ啻ニ刑法ノミナラス法律一般ニ係ルモノ、如ク註解スル者多ケレ
 トモ此法例ハ成程此ノ刑法即チ刑典ノミニ限リタルモノニハアラサ
 ルヘケレトモ一般刑事クリミナルノ法律ニアラサレハ適用スルコト能ハサルナ
 リ既ニ佛文ニ於テハ刑法一般ノ適用ト譯シタリ扱法律ノ適用トハ場
 所ト時ト事ト人トノ四ツニ關スルモノニシテ我刑法ニ於テハ第一條
 ヨリ第五條迄ニ之ヲ示シテアルコトナカラ場所及ヒ人ノコトニ付テ
 ハ現行刑法ニ明示セス宜シク法例中ニ入ルモノナルヲ以テ草案中ニ

刑法 (法例)

之ヲ示シタルハ適當ナリ但第一條ハ罪ノ種類ヲ示シタルモノニシテ
之ヲ法律ノ適用トシテ法例中ニ列シタルハ余ハ其意ヲ解スルコトヲ
得ス又第二條モ然ルモノ、如シ左レト此條ハ法律ヲ解釋シテ比附援
引スルコトヲ許サ、ルモノナルコトヲ云フタルモノナレハ之レヲ解
釋ノ方法ニ關スル法律ノ適用トスルトキハ此條ヲ法例中ニ置クモ差
支ナキコト、思ハル

第一條

第一條 凡ソ法律ニ於テ罰ス可キ罪別テ二種トナス

一 重罪

二 輕罪

三 違警罪

抑モ罪及ヒ刑トハ何ソヤ之ヲ理論上ヨリ説クトキハ六ヶ敷コトノ限
リナレトモ此席ニテ其細密ノ議論ヲスルトキハ此議論許リニテ一學

年カ濟ムカモ知レサレハ暫ク之ヲ略シ後日ヲ待テ更ニ諸君へ御話シ
スルコトアルヘキナリ
或ル學者ハ罪ヲ解シテ法律ニ於テ罰スヘキ所爲ナリトセリ是レ法律
上ノ罪ハ法律上ノ罪ナリト云フニ過キサルナリ此解敢テ當チ失ヒタ
ルモノト云フヘカラサレトモ如何ナル所爲カ罪即チ法律ニ於テハ罰
スヘキモノナルヤ否チ定ムルニ足ラサルモノナリ此他學者間ニハ種
々ナル定義多シト雖モ我現行刑法ニ於テハ別ニ其定義ヲ下サズ唯罪
ヲ別テ三種トナスコトヲ明言セリ我立法官カ學者ノ議論ハ學者ニ委
チタルハ天晴ノ手際ト云フヘシ
或學者ハ曰ク「法律ニ於テ罰ス可キ罪云々ト云フカ故ニ道德ニ於テ罰
ス可キ罪モアルコトヲ意味シタルカトノ疑モ生スヘキモノナレトモ
是レハ我現行刑法ノ文辭ヲ答ムルモノニシテ我立法官モ法律外ニ罪

アルコトヲ認メタル者ニアラスト然レトモ余ハ此論ニ服スルコト能
 ハス何トナレハ罪ノ中ニハ道德上或ハ宗教上ニ關スルモノアリ此等
 ハ宜シク各其範圍内ニ於テ道德上又ハ宗教上ノ制裁アリ法律上ノ罪
 ト混同スルコトナクンハ自ラ足レリ故ニ我立法官ハ法律外ニ罪アル
 コトヲ認メンヤ否ハ茲ニ論スルモ無益ナレトモ此條ニ付キ法律上却
 テ疑點ノ生スヘキハ第一條ノ法律ノ文字ナラスシテ可キノ文字ナリ
 即チ罰ス可キ罪云々トアルヲ以テ法律上罰セサル罪アルカトノコト
 ナリ法律上罰セサル罪ナキコトハ勿論ノコトニテ此點ニ付テハ刑法
 ハ只其書キ方ヲ不充分ニナシタルヨリ疑義ヲ生スルニ至ラシメタル
 モノト云フヘキモ我立法官カ道德上ノ罪アルコトヲ認メシヤ否ニ
 關スル疑義ヲ生スルヨリ寧ロ此事ニ付テ疑義ヲ生スルコト却テ尤ナ
 レ

此刑法ニ一重罪、二輕罪、三違警罪ノ三トセシモ何故此區別ヲ爲セシヤ
曰ク是レ便宜上ニ基キ立テタルモノナリトス其便宜トハ刑ノ輕重、裁
判管轄或ハ其手續キテ違ヘル如キ是レナリ然レハ如何ナルモノハ重
罪ニシテ如何ナルモノハ輕罪ナリヤ又違警罪トハ如何ナルモノナリ
ヤ法律ハ之レヲ明ニセズ唯刑ノ輕重ヨリ其種類ヲ定メ敢テ性質上ヨ
リ之レヲ定メサルナリ(違警罪ヲ除キ)即チ第七條以下ノモノニ由リテ
此區別ヲナシタルモノナリ
次ニ一言申置ク可キハ學者ニ由リテハ此條下ニ於テ罪ノ類別ヲ說ク
者アリオルトランノ如キ是ナリ例ヘハ一行犯不行犯、二有意犯無意犯、
三國事犯非國事犯、四現行犯非現行犯、五即時犯繼續犯、六軍事犯常事犯、
ト云フ如ク區別シテ論スル者アレトモ余輩考フルニ罪ノ類別ノコト
ハ此條下ニ講ス可キモノニアラス此等區別ハ各其條下ニ至リテ分チ

論大可キナリ即チ同シ年齢ニモ民法ハ民法刑法ハ刑法又宗教ハ宗教
上ニ於テ其法律ノ目的ニ從ヒ區別スヘシ然ルニ附帶犯非附帶犯繼續
犯連續犯ノ如キモノハ全ク治罪法上ノ區別ナリ唯有意犯無意犯國事
犯常事犯等ハ刑法上ノ區別ナレトモコハ刑法以下各條ノ下ニ於テ講
述スレハ則チ足レリトス

第二條

第二條 法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ

罰スルコトヲ得ス

此條ハ第一條ト違ヒ正ニ法律ノ適用ヲ示シタル者ナリ故ニ此條ヲ以
テ法例中ニ置クヲ至當トス如何トナレハ此條ハ解釋上寬嚴ノ程度ニ
關スル方法ヲ示シタルモノナリ學者或曰ク我刑法ハ第一條ニ於テ罪
ノ種別ヲ示シ第二條ニ於テ其罰スヘキモノヲ掲ケ其目的ヲ指シタル
者ナリト余ハ未タ其說ニ感服セサルナリ論者ノ說ノ如クハ法律ノ正

條ナキモノハ何等ノ所爲ト雖之ヲ罰ゼサルハ當然ノコトナリ刑法ノ正文ヲ要セサルコトナリ蓋第三條ハ只解釋ノ方法即チ刑法ハ嚴格ニ民法ハ寬緩ニ之レヲ解釋ス可キコトヲ示シタルナリ換言スレハ刑法ハ比附援引スルヲ許サス然レトモ民法ハ之レヲ許スモノナリ加之ス民事ニ於テハ法律ニ正條ナシトテ裁判セサルトキハ罰セラル、コトハ佛民法ニ明記セルヲ見テモ本條ハ民法其解釋ノ方法ヲ異スヘキコトヲ示シタルモノナリ此コトハ法律解釋學第四章第五節ニ論述セリ諸君就テ見ルヘシ

又第二條ニ所爲ト云フコトアリ是レハ爲ス可キコトヲ爲サス爲ス可ラサルコトヲ爲シタルモノトフ二者ヲ含有スルコトハ諸君ノ法理學ニ於テ研究セラレタルコトナルヘシ但シ茲ニ一ノ注意スヘキコトアリ即チ通常世人ハ人ヲ殺ス所爲ナドト云フコトアレトモ元來人ヲ殺

スト云フコトハ天帝ノ外人間ノ出來得サル話ニシテ人ノ殺サレテ死スルヤ爲害者之レヲ殺シタルニアラスジテ被害者自カラ死シタル者ナリ爲害者ハ切ルト云フコトコソ行ヒタルモ未ダ殺シタリト云フコトヲ得ス所謂人ヲ殺ス所爲トハ他人自ラ其生命ヲ失フニ足ルベキ源因ヲ與フルコトヲ云フノミ

諸テ是ヨリ時、場所、事、及ヒ人ニ關スル刑法ノ適用ヲ示サン

時ニ關スル刑法ノ適用

時ニ關スル法律適用ノコトハ第三條ニ規定シタルモノナリ即チ法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得スト云フコト是ナリ此レハ法律ハ頒布以前ノモノニ適用スルコト能ハスト云フ譯ナレトモ我刑法ノ此正條ヲ以テ法律ハ既往ニ遡ラスト云ヘル原則ニ外ナラストスルニ至テハ誤レリ抑モ法律ハ決シテ既往ニ遡ラサルモノニハ非サル

ナリ其コトハ法律解釋學第四章第二節第三則ニ詳述セリ必竟法律ノ
既往ニ遡ラフト云フ所以ノモノハ唯既得權ヲ害スルコト能ハスト云
フコトヲ示シタルモノニ過キサルナリ故ニ訴訟法ノ如キ現ニ既往ノ
モノニ及ホシ居レリ故ニ我刑法ハ屹度頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホス
コトヲ得スト定メタルモノニシテ他ノ法律ヲ示シタルモノニアラス
但シ刑法ハ既得權ヲ害スルカ如キコトナキノミナラス却テ寛ナルモ
ノハ既往ニ及ホスコトヲ得ルモノトス是レ第三條ノ但書ニ若シ所犯
頒布以前ニ在リテ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從
テ處斷ス云々ト規定シタルナリ又此新舊比較法ハ別ニ布告ヲ以テ定
メダレハ單ニ理論上寬嚴ノ差ヲ以テ實際ノ應用ヲ爲スコト能ハサル
コトヲ注意ス可シ

場所ニ關スル刑法ノ適用

草案第四條

場所ニ付テ刑法ノ適用ヲ論スル場合ハ内外國ニ於テ刑法ノ管轄ヨリ
來ルモノナリ故ニ是レハ内國ト外國トニ於ケル犯罪ノ關係ヲ說クモ
ノナリ此事ハ刑法ニ規定セス草案ニ見ル所ナリ古來學者ノ說ニ刑法
ハ土地ヲ管轄スト云ヒ又人ヲ管轄スト云フ英吉利刑法ハ全ク土地ニ
關スルモノトセリ全体ニ刑法ハ土地人又ハ事ニ關スル三ツノモノ合
シテ出來ルモノナリ決シテ此一方ヲノミ推シテ論スルコトヲ得サル
ナリ今草案ニ付テ論センニ其第四條ニ曰ク
日本人外國ニ在テ日本國ノ安寧ニ關シ又ハ日本ノ貨幣及ヒ貨幣ニ
代用スル銀行ノ證券ヲ偽造變造シ若クハ國璽官印記號極印ヲ偽造
スル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ日本ノ法律ニ依テ處斷ス若シ其罪ヲ
犯シタル外國ニ於テ己ニ確定ノ裁判ヲ受ケタル者ハ再ヒ之ヲ裁判
スルコトナシ

例へハ甲ナル者英國ニテ日本人日本ノ貨幣ヲ偽造スルトキハ之レヲ罰ス是レ我日本國ノ安寧ニ對シ日本國ヲ害シタルモノナレハナリ而シテ但書ニ於テ外國ニ於テ已ニ確定ノ裁判ヲ受ケタル者ハ再ヒ之ヲ裁判スルコトナシトセリ其故何ソヤ外國ノ裁判ハ日本ニ於テハ毫末ノ効力ナシ日本政府ハ何故外國政府ノ罰セシ者ニ付テハ再ヒ之ヲ罰スルコトヲ爲サ、ルヤ我日本國ニ對スル犯罪ハ日本人法律ヲ以テ罰スルニアラサレハ満足スヘキモノニアラス凡ソ外國ニ在リテ日本貨幣ヲ偽造セシ罪ノ如キハ通常外國ニ於テハ之ヲ罰セサルコトナレトモ好シ之ヲ罰スルトモ其ハ極メテ輕キモノナリ然ルニ日本政府カ其裁判ヲ甘シテ再ヒ之ヲ罰セサル所以ノモノハ何ソヤ余ハ其理ヲ解セサルナリ

草案ノ意ニ從へハ此ノ條ノ罪ハ犯人カ日本ニ歸リ來ラサルモ罰スル

草案第五條

コトナリ凡ソ日本ニ來ラサルモノヲ罰スルハ實際爲シ能ハサルコト
 ナレド是レハ欠席裁判ト云フ空炮ヲ打ツテ自ラ慰ムルモノナレトモ
 空炮ハ當ル氣遣ナキカ故ニ犯人ハ「べろ」ヲ出シテ外國ニ小躍リシテ居
 ルコトナリ設令ヒ日本ノ警察官カ外國ニ行キ之ヲ捕ヘントスルモ是
 ハ不法ノ逮捕監禁罪トシテ却ツテ外國ニ於テ罰セラルヘキナリ殘念
 至極ノ事ナレトモ是レカ道理デ致シ方ナキコトト覺悟スヘキモノナリ
 草案第五條ニ曰ク

日本人外國ニ在テ前條ニ記載シタル以外ノ重罪輕罪ヲ犯シタルト
 キハ左ノ條件ノ具備スルニアラサレハ日本ノ法律ニ依テ處斷スル
 コトヲ得ス

ト前條ハ日本國カ實際ニ於テ害ヲ受クルトキナリ本條ハ其他ノ重罪
 輕罪ヲ犯シ外國ノ安寧ヲ破リタル場合ヲ規定シタルモノナリ其罪ヲ

構成スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一、罪ヲ犯シタル國ニ於テ未ダ確定ノ裁判ヲ受ケサル時

二、犯人日本國ニ歸來リ又ハ外國ヨリ交付ヲ得タル時

三、日本國ノ法律及ヒ罪ヲ犯シタル國ノ法律ニ照シテ重罪輕罪ト爲

ス可キ時

四、被害者又ハ外國政府ヨリ日本政府ニ告訴告發ヲ爲シタル時

五、罪ヲ犯シタル國ニ於テ大赦ヲ受ケサル時

六、罪ヲ犯シタル國ノ法律ニ照シ公訴ノ期滿免除ヲ經サル時

諸何故日本人外國ニ在テ前第四條ニ記載シタル以外ノ重罪輕罪ヲ犯シタル者ヲ罰スルヤ日本人英國ニ於テ竊盜罪ヲ犯シ又姦通罪ヲ犯シタレハ日本國ニハ利害ノ關係ナク唯英國カ其安寧ヲ害セラレタルノミ然ルニ日本政府ノ之レヲ罰スルハ余輩ノ解セサル所ナリ尤獨逸ニ

於テハ此等ノ犯罪者ヲ罰スト雖モ英國法ニ於テハ其罪ヲ問ハサルナ
 リ然レハ英人カ日本ニ於テ金ヲ持逃ケシテ英國ニ歸ルモ其所爲ヲ罰
 セラレサルニ此草案アル以上ハ日本人カ英國ニ往キ金ヲ持逃シテ歸
 リタルトキハ日本ニ於テハ其罪ヲ問フモノトナス甚タ不權衡ノ極ナ
 レトモ右ニ列舉シタル條件ニ依レハ少シク其弊ヲ防キシモノニ過キ
 ス

第一項ニ確定ノ裁判ヲ受ケサルトキトアレトモ確定裁判ヲ經未タ其
 執行ヲ了ラサル中ニ日本國ニ逃ケ歸リタルトキモ之ヲ罰セサルヲ得
 ス但シ已ニ執行ヲ了リタル日限ハ刑期ニ算入シテ可ナラン獨逸刑法
 ハ現ニ斯ノ如ク定メタリ是レハ明カニ草案ノ欠點ト思ハル、ナリ又
 罰金ノ刑ニテ其幾分ヲ外國政府ニ納メタルトキハ日本政府ハ只タ其
 餘分ノミヲ徴収スヘキヤ否此事ニ付キテハ學者間數多ノ議論アリ

草案第六條

次ニ論ス可キハ違警罪ノコトナリ草案第五條第三項ニ依レハ違警罪ハ之レヲ罰セサルモノ、如シ余ハ其何ノ理ニ基キシモノカ之レヲ知ラサルナリ余思フニ違警罪モ此罪ノ中ニ入レ置ク方或ハ然ラン決シテ重罪ト輕罪トノミニハ之レヲ限ラサルナリ且國ニ由リテハ重罪輕罪違警罪ノ區別判然セサル所アリ然ルニ我國法ノミ違警罪ノ所爲ヲ不問ニ措クハ余ノ了解シ能ハサル所ナリ

草案第六條ニ曰ク

日本人ハ外國政府ヨリ處刑ノ爲メニ交付ヲ求ムルト雖モ之ヲ交付セズ

日本人外國ニ於テ罪ヲ犯シ再ヒ日本ニ逃ケ歸リタルトキハ喩エ外國政府ヨリ其犯罪人ノ交付ヲ求ムルコトアリトモ之ヲ交附セスト云フニ在リ例ヘハ自家ノ小兒カ惡戯ヲナシテ譴責セサル可ラサル時ハ己

草案第七條

草案第六條

レ自カラ之ヲ譴責ス可クシテ敢テ他人ニ引渡シテ其懲戒ヲ受クルヲ待ツノ理アラシヤ
 草案第五條第六項ニ公訴ノ期滿免除トアレトモ刑ノ期滿免除モ亦然
 リ是レハ第一項ノ欠點ヨリ來リタル欠點ナリ
 草案第七條ニ曰ク
 外國人日本管内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ハ日本ノ法律ニ依テ處斷ス
 刑法ハ土地ニ關スル者ナレハ外國人ト雖モ日本管内ニ於テ罪ヲ犯シ
 タルトギハ日本ノ法律ヲ以テ處斷スヘキハ亦當然ノ理ナリ然リ而シ
 テ之レチ英國ノ法律ニ照ラストギハ尙不足ノ感ナキ能ハス英國刑法
 ニ據レハ唯其管内ノミナラス海岸三里以外ノ遠洋ニ於テ罪ヲ犯シタ
 ル者并ニ潮ノ盈退スル外國ノ港灣ニ於ル場合ハ共同ノ管轄トス一例
 ナ示セハ假リニ日本ニ治外法權ナキモノト見做シ譬ヘハ英船其國人

草案第八條

ヲ乗セテ横濱ニ來リ碇泊中英人相互ニ鬭爭ヲナシ我カ警察官之ヲ認
ルトキハ日本ノ法律ニ依リテ之ヲ處斷スヘキナリ何トナレハ設令英
船ニ在リテ英人ノ鬭爭シタルニモセヨ其碇泊ノ場所ハ則チ日本ノ港
灣ニシテ其所爲ハ則チ日本ノ公安ヲ破リタル者ナレハナリ若シ刑法
ヲシテ人ニ關スル者ノミトナサハ英人相互ノ鬭爭ハ日本人ニ關係ナ
シト雖モ尙モ刑法ハ土地ニ關スル者ナリトセハ其社會ニ對スル犯罪
ハ外國人ナリトモ宜シク日本ノ法律ニ於テ罰スヘキナリ勿論其犯罪
ニシテ外國ノ法律ヲ以テ罰スヘキ者ナルトキハ英國ノ法律ニ依リテ
モ亦之ヲ處斷スルコトヲ得ヘシ是レ共同ノ管轄ナレハナリ

草案第八條ニ曰ク
外國人外國ニ在テ日本國ニ對シ第四條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル
者外國ニ於テ確定ノ裁判ヲ受ケスシテ日本國ニ來ル時ハ日本ノ法

律ニ依テ處斷ス

第四條ニ記載シタル罪トハ日本國ノ安寧ヲ破リ又ハ國璽ヲ偽造スル等ヲ云フ者ニシテ第一確定裁判ナキト第二日本國ニ來ルトニ依リ此條ノ罪ヲ組成ス要言スレハ外國人カ外國ニ於テ罪ヲ犯シ日本國ニ來ルトキハ日本國ノ法律ヲ以テ處斷スト云フ隨分奇怪ナル條ニシテ議論ノ因テ出ル多シトス抑刑法ハ土地ニ關スル者トセンカ將タ人ニ關スル者トセンカ土地ニ關スル者トセハ其犯罪ノ場所ハ外國ナリ何ソ日本國ニ關係アラシヤ人ニ關スル者トセンカ其犯罪人ハ外國人ナリ又何ソソ日本人ニ關係アラシヤサレハ英國ノ學者ニ云ハシムルキハ斷然罰ス可エサル者トナスハ必定ナリ何トナレハ土地ニ關係ナシ又人ニ管轄ナクレハ之ヲ罰セント欲スルモ罰スヘキ根據ナシ加之ス外國人ハ日本ノ法律ヲ知ルノ義務ナシ既ニ之レヲ知ルノ義務ナクレハ

又何ソ敢テ日本國ノ法律ノ爲メニ束縛セラレシヤ然ルヲ日本國ニ
來リタルヲ理由トシテ捕ヘテ之ヲ罰スルハ是レ曾テ日本ノ法律ヲ知
ルノ義務ナキ者ニ責ムルニ其曾テ之ヲ知ラサルノ罪ヲ以テスルモノ
ニシテ法律ハ既往ニ及ホサル原則ニ乖戾スルノミナラス此ノ如ク
ナルトキハ結局日本國ノ法律ヲシテ世界萬國ニ發布セサル可ラサル
ニ至ラン是レ豈言フ可クシテ行フ可キ者ナランヤ故ニ此條ハ所謂論
據ナキノ法律ニシテ余ノ奇怪ナリトナス所以ナリ乍併佛蘭西學者ノ
ナルトラン氏其人ノ如キモ猶此論ヲナス者ニシテ氏ハ此條ニ於テ其他
ノ重罪例ヘハ日本人カ外國ニ於テ日本人ヲ殺シタルカ如キ罪ヲモ包
括セリ若シ此等ノ論者ノ說ノ如ク日本社會外ニ於ル騷動ヲモ日本ノ
法律ヲ以テ罰スルトキハ遂ニハ日本社會ニ於ケル外國人相互ノ騷動
ヲ目撃スルモ日本ノ警察官ハ傍觀シテ拱手セサル可ラサルニ至ラン

此條ヲ辨護スル者アリテ曰ク刑法ハ土地ニ關スル者ナリ此ノ犯罪ハ日本國ニ對スルモノナリ故ニ日本ノ管轄内ニ來ルヲ以テ之ヲ罰ス則チ外國人ハ日本ノ法律ヲ知ルノ義務ナケレ共日本ニ來ルノ行爲ヨリシテ其義務ヲ生スルナリト然レトモ若シ此論據ニ由ルトキハ第四條(草案)ト等シク日本人カ外國ニ於テ日本ノ安寧ヲ害シタルトキハ日本ニ來ラスト雖モ缺席裁判ヲナシ空法ヲ適用スルカ如ク外國人ト雖モ缺席裁判ヲ爲サ、ルヲ得ス如何トナレハ此ノ犯罪ハ日本國ノ安寧ヲ破ルモノナレハ更ニ内外人ヲ區別ス可ラス今英人カ英國ニ於テ日本ノ貨幣ヲ偽造スルモノアランニ遠ク我日本ノ裁判所ニ於テ缺席裁判ヲ爲サンカ世界ノ物笑ヒナランノミ

以上第四條ヨリ第八條ニ至ルマテハ草案ニ於テ之ヲ決シタリ其中ニハ前段ニ述タルカ如ク隨分奇怪ナル條モアリ既ニ決定シタルコトナ

レトモ法律管轄ノ事ハ隨分込ミ入タルコトニシテ例ヘハ河ヲ隔テ、
相隣スル國アリトセシカ此場合ニ於テ甲國ヨリ乙國ノ人ヲ炮撃シタ
ルトキハ其人ハ甲乙何レノ國ノ法律ヲ以テ之ヲ處斷スヘキヤ等ノ疑
問起ルナラン隨分面倒ナルコト多シ此等ノ事ハ他日國際私法ニ於テ
諸君カ詳細ノ講義ヲ聞カル、コトアルヘシ

却說以上ハ草案ノ條文ニ由リ場所、人、及ヒ事ニ關スル刑法ノ適用トシ
テ論シタレトモ今刑法ハ人ニ關スルモノニアラス專ラ土地及事ニ關
スルモノトシテ之ヲ論スルコトヲ得ヘシ即チ苟モ日本管内ニ入ルモ
ノハ内外人ヲ問ハス又日本ノ船舶ハ一小島ニ浮ヒ行ク者ナレハ日本
國ニテ之ヲ管轄ス可キモノトシ草案第四條ノ缺席裁判ヲ爲スカ如キ
空法ヲ止メ日本人トアルチ内外人ト改メ日本國ニ來ルトキハ云々ノ
但書ヲ加ヘタルトキハ全ク土地ニ關スル管轄トナル可シ尤モ第八條

事ニ關スル刑法ノ適用

第四條

外國人外國ニテ日本ノ安寧ヲ害スル罪ヲ犯シ日本國ニ入リタルトキハ日本ノ法律ヲ以テ之ヲ罰スルハ不當ノ如クナレトモ國ニ入ルニハ先ツ其國禁ヲ問フテ然ル後入ル可シ其之ヲ問ハサル者ハ罪ナリ故ニ苟モ日本國ニ在ルモノハ盡ク之ヲ罰ス可キナリ

事ニ關スル刑法ノ適用

是ヨリ事ニ關スル刑法ノ適用ヲ述ヘン即チ刑法第四條第五條ニ記載スルモノ是ナリ

第四條 此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可キ者ニ適用スルコトヲ得ス

此條ハ軍事ニ關スル適用ヲ示セルナリ所謂者トハ人ヲ指スニアラスシテ事ヲ指スモノナリ則刑法ハ前ニ述タルカ如ク土地ニ關スル者ナレハ外國人スラ嘗テ之ヲ罰スルニアラスヤ然ルニ况ンヤ日本國ノ人民

第五條

タル者ヲヤ故ニ此條ノ主意タルヤ唯陸海軍ノ法律ニ於テ正條アル者ハ其正條ニヨリテ處斷シ此法律ヲ適用ス可ラスト云フニ在リ必ス軍人ニ關スル者ト誤解スルコト勿レ但シ軍事犯ト雖其管轄ニ至リテハ陸海軍刑法及ヒ布告ニ由リ通常裁判所ニ於テ之ヲ罰スルコトアリ

第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從フ

若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フ

此條ハ別ニ説明ヲ要セス則チ他ノ法律規則例ハ新聞條例出版條例ノ類ノ如ク特別ノ規則ニ於テ刑名ヲ定メ此刑法ニ正條ナキモノハ各其規則ニヨリテ處斷スト云フニ止マレリ

刑例

第二章 刑例

第一節 刑名

第六條ヨリ第十條マテニ刑名ノ事ヲ掲ケタリ此刑ヲ分ツテ色々トナシタルカ一体此刑ハ如何ニ分ツチ宜シトスルヤ即チ學問上如何ニ分ル、モノナリヤト云フニ付學者ノ議論多シト雖モ理論上大概之ヲ四ツニ分チ一、生命刑(死刑)二、自由刑(徒刑禁獄)ノ如シ三、榮譽刑(剝奪公權停止公權)ノ如シ四、財産刑(罰金科料)トス凡ソ學問上ノ區別ハ如此ナレトモ我カ立法官ハ大變ノ刑名ヲ置キタリ此刑名ヲ多クシタルハ佛蘭西ニ倣フタルモノナランカ今其刑名ヲ見ルニ其區別立タサルモノアルカ如シ加之ニ刑名ヲ多クスルハ經濟上ニモ大ニ忌ム可キコトニシテ刑名ヲ多クスルハ學者ノ批難ヲ免レサル所ナリ重懲役ト云ヒ輕懲役ト云ヒ重禁錮ト云ヒ輕禁錮ト云フカ如ク種々雜多ニ刑名ヲ分ツハ佛蘭西ノ如キ舊キ成典ニコソ見ユレ今日新タニ成ル所ノ者ニ斯カル

第十一條

刑名ノ多キハ恐ラシクハ其比類ナカランカト存スルナリ第一徒刑ノ如キモ佛蘭西ノ如キ國ニ在リテハ尤モノ刑ナレトモ我日本ノ如キハ原來島國ニシテ日本人ハ皆島流シノ身分ナリ其島流シノ身ヲ以テ又島流シトナストハ實ニ奇怪ノコトナリ此等ハ佛蘭西ノ刑法ガ日本ニ似タルニ非スシテ我日本ノ刑法カ偶然佛蘭西ニ似タルナラン我刑法ニ於テ重罪九、輕罪三、違警罪二、凡テ十四之ヲ主刑ト定メ別ニ附加刑六アリテ通計スレハ二十トナル實ニ大變ノ刑名ナリト言フヘキナリサテ此等ノ刑ノ如何ハ第二節以下ニ記載セルヲ以テ各其條下ニ於テ講述ス可シ

第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目

六別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

トハ別ニ監獄則アリテ此等ノ事ヲ定メタルヲ云フナリ

主刑處分

第一節 主刑處分

主刑處分トハ如何ナルコトヲ謂フヤ或ハ主刑ノ構成ヲ説キタルモノナリト云フ者アレトモ余ハ主刑ハ如何ニスルト云フコトヲ説キタル者ノミト思フナリ

第十二條

第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ

若シ主刑處分ハ主刑ノ構成ノ事ヲ説キタルモノト見ルトキハ此處ニ於テ死刑ハ生命ヲ奪フト書ク可キナリ然ラサル者ハ構成ノ事ヲ書キタルニアラサル證ナリ又舊法ニ於テハ死刑ニ絞斬ノ二種アリタレトモ此刑法ハ絞罪ト改メ設ケ其生命ヲ奪フモ身首處ヲ殊ニスルコトナカラシメタリ
死刑ハ獄内ニ於テ之ヲ行ヒ公ケニセスト云フニ付或學者ハ死刑ハ人

民ヲ警戒スル主義ナレハ公ケニ之ヲ行ヒ秘密ニス可ラスト云フ者アレトモ夫レニテハ餘リ殘酷ニ過クルニ由リ内々獄内ニ之ヲ行フ者ナラン此死刑ヲ公ニスルコトハ宜シカラサルカハ知ラサレトモ或國ニ於テハ刑法警戒ノ主義ニ由リ死刑ヲ執行スルトキハ鐘ヲ撞テ人民ニ之ヲ報セシム亦一奇法ト云フヘシ

絞首ノ方法等ハ監獄則ニアレハ茲ニ贊セス

第十三條

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非レハ之ヲ行

フコトヲ得ス

死刑ハ最モ大事ナル刑ナレハ容易ニ之ヲ執行ス可キモノニアラス故ニ裁判申渡アリト雖モ必ス檢事ヨリ司法卿ニ上申シテ其命令ヲ得ルニアラサレハ之ヲ執行セサルヲ云フモノニシテ尙ホ特赦ヲ受クルコトアルヲモ測ラレサルヲ以テナリ

刑法 (第十三條、第十四條、第十五條)

第十四條

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁

ス

此レハ祝日ナレハ死刑ヲ行ハスト云フコトヲ定メタルナリ委シキコ

トハ附則ニ就テ見ルヘシ

第十五條

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受タル婦女懐胎ナル時ハ其

執行ヲ止メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハ

ス

如何ナル故ニ斯クハ爲シタルカト云フ理由ハ諸君容易ニ之ヲ解セラ

ル可シト雖其解セラル、處大ニ齟齬スル所アルヲ知ル何ソヤ諸君必

ス之ニ答テ云ハントス刑ハ一人ニ止マルナリ故ニ子ニ及ホサスト之

レ佛蘭西法ノ原則ナリ然レトモ我カ此刑法ハ刑若シ二人ニ及ハサル

者トスルトキハ分娩後直チニ之ヲ執行ス可シ何ソ一百日ノ猶豫ヲ待

ツコ及ハンヤ論者或ハ云ハン凡一百日ノ猶豫ヲ與フルモノハ其子ヲ育ツルニ必要トスレハナリト然ラハ何故其子ノ死シタルトキハ直チニ之ヲ執行セサルヤ然ルチ之ヲ許サスシテ尙且百日ノ猶豫ヲ與フルモノハ之ヲ要スルニ母子共ニ哀ハレム者ト云ハサル可ラス決シテ佛蘭西ノ原則ヲ的儀ムルコト能ハサルナリ

母子共ニ哀レムト云フト雖此理由モ尙面白カラス何トナレハ生子百日ヲ經過シ母ノ愛情益加ハルトキニ於テ之ヲ殺スハ甚殘酷ニシテ寧ロ産後直チニ之ヲ殺スノ優レルニ如カサルカ如シ

第十六條

第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレハ之ヲ

下付ス

是レハ餘リ世話焼キ過キタルモノナリ斯ク云フトキハ其遺骸ヲ下付スルト下附セサル權ハ官吏ニ在ルモノカノ如ク見ユレ共決シテ然ラ

サル者ナリ

但式ヲ用ヒテ葬ルコトヲ許サス

ト此等ハ宜シク警察規則ニ於テ定ムレハ澤山ナリト思ヘリ必竟國ノ治安上ヨリ出テタルモノニシテ茲ニ之ヲ規定スルハ不都合ニシテ且ツ却テ警察規則ニ書キタル方效能アリテ此條別ニ制裁トテモナク要スルニ犯スモノアレハ警察官ハ之ヲ止ムルノミ

以上ハ死刑ノ事ニ關スル講述ナシタルカ或學者ハ死刑廢ス可シト主張スルモノアリ此死刑廢スヘシトスルハ理論上ヨリ來ルモノニテ又廢ス可ラストスルハ實際上ヨリ來リタルモノナリ兩ナカラ理アリテ兎テモ予輩ノ喙ヲ容ルヘキニアラサル處ナリ且又日本ニテハ現ニ死刑廢ス可ラストシテ置カレタル者ナレハ別段論スルニモ及ホサレトモ死刑廢ス可シト云フ論モ一應之ヲ聞カサル可カラサルナリ此ハ理

論上宗教上ノ議論アリテ其論點トスル所ハ曰ク人ヲ殺シタルモノハ
刑法上ノ罪アリトシテ捕ヘテ之ヲ殘酷ナル死刑ニ處スルハ何ソヤ法
律ハ人ヲ殺ス可カラスト云ヒテ自カラ人ヲ殺スニアラスヤ又曰ク人
ハ怨或ハ怒リニ乘シテ人ヲ殺ス反之法律ハ而カモ平氣ヲ以テ緩々ト
シテ人ヲ殺ス又曰ク一人ヲ殺シタルカ爲メ又他ノ一人ヲ殺スハ何ソ
ヤ凡ソ人ノ社會ヲナスヤ此ノ如キノ理アラソヤ社會ニ害アルモノナ
レハ宜シク之ヲ入牢セシム可シ然ルヲ法律アルカ爲メ一人ヲ殺スト
キハ又他ノ一人ヲ殺シ其結果ハ終ニ社會ニ二人ヲ亡失スルニ至ル
又曰ク死刑一タヒ行ヘハ再ヒ生カス可ラサルニ至ル若シ誤テ人ヲ殺
ストキハ如何スヘキヤト云フモノアレトモ此論ハ未タ以テ死刑廢ス
可シトスル論據トナスニ足ラス此ノ如キハ唯死刑ノミニ限ラサルナ
リ然レトモ一人ヲ殺シタルカ爲メ他ノ一人ヲ殺シ遂ニ社會ニ二人ヲ

徒刑

亡失セシム可ラストスルカ如キハ最モ批難シ難キ論點ナリトス

徒刑トハ大寶令等ヨリ引出シ論シ來ルトキハ長々シキ講譯アレ共唯
 一言以テ云ヘハ島流シナリ徒刑ニハ有期無期ノ別アリテ孰レモ島地
 ニ派遣シテ苦役ニ服セシムル者ナリ(只今ニテハ北海道ニ派遣スル者
 トセリ)此島地ニ派遣スルヲ以テ原則トスレ共其徒刑トナル可キ者女
 ナルトキハ別段之レハ丁寧ニ取扱ヒ内地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服セ
 シム(第十八條)掇何故女ハ島地ニ遣ラサルヤ女ハ体ノ柔弱ナルヲ以テ
 理由トナスカ知ラサレトモ然ラハ男コテモ体ノ柔弱ナルモノ多シ然
 レハ更ニ其理ヲ解セサルナリ
 夫レ島地ニ派遣スルノ目的トスル處ハ殖民セントスルニ在リ故ニ其
 島タルヤ寒地ナラサレハ熱地ニシテ住民少ナク開墾ノ業ニ就カサル所

第十九條

ナリ然ルニ女無ナケレハ殖民ノ目的ニ背反スルニアラスヤ經濟學者
モ女少ナケレハ殖民ノ用ヲナサス黴毒等多流シテ却テ宜シカラスト
云フモノアリ

且又諸君問ハル、ナラン徒刑トハ女ニ對シテハ懲役ナリ何故然ルヤ
ト是ニ至ツテハ余モ亦刑法ヲ辨護スルコト能ハス唯其違フ所ハ年限
ノ長短ノ一點ニアリテ他ノ性質ハ異ナルコトナシ
又徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免レ其體力相當ノ定役ニ
服ス

(第十九條)ハ是レ亦學者ノ批難ヲ免レサルナリ此ノ條ニ因リテ考フル
トキハ徒刑ハ壯年ナレハ體力不相當ノ役ニ服セシムルヤノ疑起ルト
雖モ此レ素ヨリ出來可ラサルコトニテ壯年ニテモ体力相當ノ役ニア
ラサレハ出來ヘキ者ニアラス是レ或獨逸ノ學者カ日本ノ刑法ヲ批難

シタル所ナリ故ニ定役ハ何時ニテモ体力相當ナリ体力不相當ナレハ
忽チ死ヲ致ス可シ然ラハ徒刑ハ亦一ノ死刑ナリ
或人曰ク世人ハ皆体力相當ノ役ヲナスモノナリ若シ徒刑ヲシテ体力
相當ノ役ニ服スル者トセハ世人皆是レ徒刑ナリト云ハサル可ラス故
ニ体力不相當ノ役ニ服セシメサレハ刑トナラスト云フモノアリ大ニ
間違ヒタル論ナリ凡ソ刑トハ如此モノニアラスシテ良民ハ却テ徒刑
ヨリ苦シキ役ヲ採ルカモ知ラス然レトモ良民ハ其勞力ノ結果ヲ自カ
ラ收ムルコトヲ得レトモ徒刑ハ自カヲ收ムルコト能ハサルノ大差異
アリ此事ハ後ニ至リテ説ク所アラシカ
以上述ヘタルカ如クナルニ由テ刑法ハ壯年者ニハ体力ノ盡スヘキ限
リハ之ヲ盡サシメ六十歳以上ノ者ハ其年齢ニ相當スル役ニ服セシム
ル者ト解釋ヲ下サ、ル可ラス然レトモ隨分六十歳ニテモ猶矍鑠トシ

流刑

第二十條

テ壯年ニ異ナラサルモノアリ

流刑

第二十一條

懲役

第二十二條

(第二十條) 流刑ハ無期有期ヲ分ツス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス
 刑ノ性質ハ徒刑ニ異ナラサレトモ唯其異ナル所ハ定役ノ有無ト外ニ
 適用上一方ハ國事犯ニ用ヒ一方ハ常事犯ニ用ユルノ點ニ在ルノミ
 サテ此流刑ト死刑トハ殆ント十萬億度ノ差アリト云フヘシ命アレハ
 物種ニテ無期流刑ニ五年ヲ經過スレハ獄ヲ出テ島中ニ住ムコトヲ得
 (第二十一條) 有期モ同シク三年ニシテ此權ヲ得ルコトアリ然レトモ此
 權タルヤ自カラ求メテ得ヘキニアラス典獄ノ申立ニ由リ行狀ノ善良
 ナルモノヲ獎勵スル爲メニ宥サル、特典ナリ

懲役

懲役ハ諸君ノ聞キ慣レタル處ニシテ内地ノ懲役場ニ入レテ定役ニ服

スル者ナリ(第二十二條輕重ノ差ハ期限ノ長短ニヨリテ區別セリ)

禁錮

禁錮ト云フ名アレトモ實際重禁錮ハ懲役ト變リナク唯年限ノ異ナル
ノミ此禁錮ニ付キ輕重ノ區別アルハ其年限ニ變リナキモ定役ノ有無
ニ由リテ之ヲ分テリ

(第二十五條定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄
舍ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス云々)

此條批難ス可キ點ニシテ前ニ述タル如ク良民ノ世渡リニ於テ苦役ノ
様同シコトニテ却テ罪囚ヨリ苦シキコトアレトモ唯其勞金ノ手ニ入
ルト否ラサルトニヨリテ異ナリト言ヒシカ爰ニ此條アリテ其性質ヲ
害シタルモノト云フヘシ左レトモ我刑法ノ此條ヲ設ケタルハ囚徒ノ
放免ノ後ニ於テ其生計ヲ得ルニ便ナラシメタルモノナラム

ナ理會スルコト敢テ難キコアラサルヘシ
以下掲クル所ノモノハ即チ今日世ニ知ラル、十二銅表ノ重要ナル規
則ナリ

第一表ハ民事詞訟ノ手續ニ關スルモノニシテ若シ人司法官ノ召喚ニ
應シ出庭セサルトキハ威力ヲ以テ之ヲ引致シタリト雖モ老衰疾病者
ノ爲メニハ特ニ牛馬ヲ供シタリ又原被兩造互ニ和議承諾スルトキハ
之ヲ和解スルコトヲ許容シタリ若シ然ラサルトキハ法庭ニ於テ午前
ハ原被兩造ノ陳述ヲ聽キ午後ニ至リ司法官ハ之ヲ判決シ日没ニ至リ
テ其手續ヲ中止セリ

第二表ハ詞訟ニ於テ宣誓者宣誓者トハ無罪或ハ負債ナノ出スヘキ保
證金ノ額ヲ定メ又必要ノ場合就中司法官ノ命シタル判官又ハ審問官
ニシテ其人ヲ得サルカ如キ場合ニハ其事件ヲ中止シ得ヘキコトヲ許

シ且證據人ヲ召喚スルノ方法如何ヲ指定スルモノナリ
第三表ハ負債者ノ爲メニ設ケタルモノナルヤ明カナリ何トナレハ此
法律ハ結局負債主ヲ以テ債主ノ爲ス所ニ一任シタリト雖モ又負債主
ニ其運命ヲ挽回スルノ手段ヲ附與シタレハナリ蓋シ負債主ハ其負債
アルコトヲ自白スルカ又ハ負債者ナリト判定セラレタル場合ニ於テ
三十日間ノ猶豫ヲ與ヘラル、モノニシテ其間ハ債主ヨリ負債主ニ對
シ起訴其他ノ手續ヲナスコトヲ得ス其期ヲ經過シタル後司法官ニ之
ヲ訴フルモノトシ若シ負債主尙ホ其負債ヲ辨償セサルカ又ハ保證人
ヲ見出サ、ル片ハ債主ハ量目十五磅ヨリ多カラサル鐵鎖ヲ負債主ニ
負荷セシムルコトヲ得ヘシ然レトモ毎日一磅ノ麵粉ヲ給セサル可カ
ラス斯ノ如クシテ六十日間經過スルトキハ之ヲ司法官ノ前ニ出シテ
其生存セルヤ否ヤヲ示スモノトセリ而シテ又債主ハ其負債ノ金額ヲ

三日間市場ニ揭示スルモノトセリ是負債主ヲ購フノ機會ヲ與ヘタル
モノニテ右ノ手續ヲ經タル後ニ非ラサレハ債主ハ其負債主ヲ自家ノ
欲スル所ニ從ヒ奴隸トナシ之ヲタイバル河以外ニ賣却スルヲ得ス又
之ヲ殺スコトヲ得サリシナリ若シ又數人ノ債主アルトキハ各債主ハ
其負債主ヲ片裂シテ其身面ヲ債主間ニ分ツヲ得假令債主ノ一人其取
ル可キ權利ニ比例シ多分ニ其身體ノ一部ヲ取ルコトアルモ之ヲ罰セ
サリシナリ

第四表ハ一家族ノ家長ニ關スル法律ニシテ家長タル者ハ其權内ニ屬
スル不具ノ子女ヲ殘殺スルモノトシ且其子女ノ生命自由ノ上ニ有ス
ヘキ無上ノ專權ヲ定メタリ然レトモ家長若シ三タヒ其子ヲ賣却シタ
ルトキハ子ノ家長ノ束縛ヲ免ル可キモノトセリ

第五表ハ相續及ヒ後見ニ係ルモノナリ凡テ婦人ハ清淨ノ處女ヲ除ク

ノ外終身後見ノ職ヲ有スルモノトシ若シ人遺囑書ニ由リ其相續ヲ定メタルトキハ法律ハ之ニ從ヒ若シ遺囑ナクシテ死亡シ正統相續者ナキ場合ニハ其人ニ最近ナル正系ノ親戚ヲ以テ相續人トナシ又正系ノ親戚ナキ場合ニハ同系ノ者ヲ以テ之ニ充ツルモノト定メタリ且又遺囑書ニ後見人ヲ指名セサル時ニ於テハ正系ノ親戚ハ後見人トナリテ瘋癲白癡等ノ管財者ヲ有セサル者ヲ保護スヘキモノト定メタリ第六表ハ所有權ニ關シテ左ノ事項ヲ定メタリ凡ソ「ネキシアム」或ハ「マシビアム」ト稱スル嚴格ナル不動産移轉ノ方式ニ於テ陳述シタル言語ハ法律上其効力ヲ有スルモノニシテ之ニ違背スル者ハ其不動産ノ代價ニ二倍スル科料ヲ拂フヘキモノトセリ

期滿得權ヲ得ルニハ不動産ハ二箇年動産ハ一ケ年ノ間之ヲ所持スルコトヲ必要トス又夫ハ其妻ノ期滿得權ヲ得ルコト一ケ年ヲ以テ足レリ

トセリ然レトモ其妻ニシテ若シ其期限内ニ引續キ三晝夜間夫ノ居住
ヲ離ル、ニ於テハ其効力ヲ生セサルナリ而シテ羅馬府民ノ外何人ト
雖モ此期滿得權ヲ得ルコト能ハサルモノト爲シタリ又既ニ家屋ニ建
築シタル材料ハ其家屋ノ破壊セラレ、カ或ハ額敗スルニ至ルマテハ
其材料ノ所有主ハ之カ返濟ヲ請求スルヲ得サルモノトセリ且又賣却
シタル物件ノ所有權ハ賣主ニ於テ全ク代價ヲ拂ハル、マテ買主ニ移
轉セサルモノトシ尙ホ法律上ノ移轉ト稱スル財産移轉ニ關スル想像
上ノ詞訟及ヒ「マンシペーシヨン」ノ手續ヲ確定シタリ
第七表ハ建築物土地道路ノ廣狹樹木ノ繁茂シテ他ノ領地ヲ犯シタル
場合等ニ關スル規則ヲ含有スルモノニシテ疆界爭論ノ場合ニ於テハ
司法官ハ審査人ヲ命ジテ之ヲ審判セシムルモノトセリ
第八表ハ犯罪規則ニシテ誹譏ノ詩歌ヲ賦シ又ハ暴行ヲナシタルモノ

ハ重罪ノ刑ニ處シタリ而シテ四肢ヲ折斷スルノ罪ハ之ヲ罰スルニ四
 肢折斷ノ刑ヲ以テセリ又自由人ノ一片ノ骨ヲ毀損スルモノハ三百^ア
 セス^ア貨幣ノ名稱ナリ^ハ羅馬國ノ罰金ヲ科シ奴隸ノ一片ノ骨ヲ毀損スルモノハ
 百五十^アアセス^アノ科金ニ處シ他人ニ損害ヲ加ヘ又ハ瑣細ノ暴行ヲナシ
 タルモノハ二十五^アアセス^アヲ科シタリ若シ四足獸ノ爲メニ損害ヲ蒙フ
 ルトキハ被害者ノ何人タルニ拘ハラズ損害要償トシテ其獸類ヲ被害
 者ニ與フルモノトナシ夜中他人ノ田畑ヲ損害シ或ハ建築物ニ放火ス
 ルモノハ死刑ニ處シ竊盜ノ場合ニ於テ若シ其目的ヲ遂ケスシテ捕縛
 セラルトキハ其罪ヲ輕減スルコトナク均シク竊盜ノ罪ヲ以テ論ス
 ヘキモノトス若シ自由人竊盜ヲナストキハ笞杖ヲ加ヘ然ル後被害者
 ニ之ヲ引渡シ若シ又奴隸竊盜ヲ犯シタルトキハ笞杖ヲ加ヘタル後^ダ
 ルピア^ン岩上ヨリ投棄スルモノト爲セリ其他重大ナラサル竊盜犯ニ

○英吉利法律學校新年宴會祝辭

去ル一月廿五日午後第七時ヨリ本校々長並講師ハ九段坂上富士見軒
ニ於テ本校ノ新年宴會ヲ開ケリ當日來會セラレタル方々ヲ舉クレハ
英國公使プランケット米國公使ハツバード兩閣下英國判事ハンネ米
國總領事グレートハウス司法省顧問カークード貴下尾崎大審院長名
村大審院檢事長野村控訴院檢事長渡邊大學總長金子栗塚兩秘官穗積
法科大學教頭高木東京始審裁判所長狀師リツチフヒルド君同ラウダ
一君米國副總領事シドモール貴下新聞記者ブリンクリー同イースト
レーキノ諸氏其他判官代言士等無慮六十名ニシテ晚餐將サニ終ラン
トスルトキ來賓及校長講師代ル々々左ノ順序ニテ祝詞ヲ述ヘ午後第
十一時過主客各歡ヲ盡シテ退散セリ今其祝詞中往々法學者ノ爲メ裨
益アルモノアルノミナラス我英吉利法律學校ノ現況ヲ知ルニ足ルモ

ノアルヲ以テ左ニ之ヲ譯出シ以テ廣シ校外生諸君ニ示スト云フ

祝詞ノ順序

一天皇陛下ノ萬歳ヲ祝ス 英國公使閣下

一英國皇帝陛下ノ萬歳ヲ祝ス 菊池 講 師

一米國大統領閣下ノ萬歳ヲ祝ス 同

一來賓ニ對スル祝詞 增 島 校 長

一同答辭 英國公使閣下

一日本裁判官ニ對スル祝詞 米國公使閣下

一同答辭 岡村始審裁判所長

一狀師ニ對スル祝詞 松野 講 師

一同答辭 米國總領事貴下 英國狀師リツチフヒルド貴下

一新聞記者諸君ニ對スル祝詞 山 田 講 師

一同答辭

ブリックリー貴下

一英吉利法律學校ニ對スル祝詞

英國判事ハンネ貴下

一同答辭

菊池講師

饗宴ノ終ニ臨ミ英國公使サーフランシス、アル、プランケット閣下ハ

天皇陛下ノ健康ヲ祝シ奉リテ左ノ演述ヲ爲セリ

余ハ今茲ニ蕪辭ヲ呈スルノ榮ヲ得テ一ノ祝詞ヲ述ヘント欲ス此祝詞
タルヤ多辯ヲ要セスシテ能ク内外諸紳士ノ熱衷ナル贊助ヲ受クヘキ
ヲ疑ナ容レサル所ナリ惟フニ能ク一國ノ舊制ヲ一掃シテ万古不拔ノ
偉業ヲ擧ケタル者之ヲ廣ク近世ノ世界ニ求ムルニ日本 今上天皇陛
下ノ右ニ出ツルモノナシ幼冲寶祚ヲ繼ギ無前ノ新政ヲ施クヲ既ニ是
ノ如ク盛ナリ其史上并ニ實際上ノ功績ニ至リテハ千万ノ頌贊モ豈能
ク之ヲ盡スヲ得ンヤ今日ニ至ル迄ノ成績是ノ如ク其レ著シ則將來

ノ隆盛モ得テトスルニ餘アリ抑、吾人ハ今上陛下ノ即位ニ先チテ日本ニ渡來セリト雖モ吾人カ日本ノ懇待ヲ受ケ海山万里ノ外ニアリテ尙郷里親故ノ間ニアルカ如キ感ヲ生シタルハ實ニ仁慈叡聖ナル今上陛下ノ德澤ニヨリテ然ルナリ吾人外臣豈欣喜歡悅シテ陛下ノ健康ヲ祝セサルヘケンヤ凡帝王ノ健康ヲ祝スルニ當リテハ演辭長カラサルヲ常トス由リテ余ハ只日本今上天皇陛下ノタメニ謹ミテ壽杯ヲ舉ケ以テ諸君ト共ニ此近世ノ史乘ニ赫灼タル御宇ノ繫盛昌榮ヲ祈ラント欲スルナリ(喝采)

次ニ英吉利法律學校講師司法大臣秘書官菊池武夫氏ハ英國皇帝及合衆國大統領ノ健康ヲ祝シテ左ノ英語演述ヲ爲セリ

支那ノ先哲ノ言ニ疆ニ入リテ其禁ヲ問フノ語アリ我國ニ在留セラル、外國紳士ハ此事ニ注意ヲ煩ハサ、ルモ可ナレモ英吉利法律學校ノ

校員ナル吾人ハ能ク此教ヲ守リテ英、米ノ法律ヲ學ヒタリ是吾人カ曾
テ英國若クハ米國ノ疆ニ入リタルカ故ナリ然ラスンハ他日之ニ入ラ
ント欲スルノ望アルカ故ナリ(賞賛)其國ノ法律ヲ學フ者ハ概テ皆其民
ト親ム他人ハ知ラス吾人ニ於テハ其實際ニ然ルヲ覺ユ英、米ノ法律ヲ
學ヒタル吾人ハ半ハ英、米人ニ化シタル如ク感スルナリ(笑及賞賛)余ヤ
思フニ吾人ハ半ハ英、米人ニ化スルト愧ツルニ足ラサルナリ否啻ニ愧
テサルノミナラス余ハ却テ他人ノ亦吾人ニ倣フモノアラントテ望ム
ナリ何トナレハ國民ノ安危如何ハ司法ノ可否如何ニアリテ空理浮法
ニアラス而シテ法律應用ハ實ニ英、米ノ法律家カ長所トナス所ナレハ
ナリ諸君ヨ余ハ今諸君ト共ニ英國皇帝及合衆國大統領ノ健康昌榮ヲ
祝シテ茲ニ壽杯ヲ舉ケント欲ス而シテ之ヲ祝セント欲スル所以ハ啻
ニ我國ニ親密平和ナル英、米兩國ニ對スル普通ノ政治的及通商的關係

ヨリシテ然スルニアラス吾人ハ此二大國ニ對シテ特ニ愛深ク感同
シキモノアリ加之多少戴恩ノ情アルニヨリテ然リ吾人英吉利法律學
校々員ノ祝意是ノ如シ諸君請フ之ヲ了セヨ(喝采)

次ニ校長増島六一郎氏ノ英語演述アリ左ノ如シ
貴紳諸君ヨ諸君ハ雨天ニモ拘ラス今夕茲ニ枉駕ヲ辱ウス吾人ノ幸榮
何カ能ク之ニ加ヘン余ハ今貴紳ノ健康ヲ祝シテ壽杯ヲ舉ケン諸君請
フ之ヲ了セヨ

本校ノ目的并ニ其設立ノ理由ハ前年宴會ノ際既ニ之ヲ畧陳セリ余ハ
當時ノ所述ヲ茲ニ再ヒ贅セス今夕ハ吾人ノ親友タリ且勸獎者タル貴
紳ニ對シテ只當時以來ノ事業ヲ報道スルノ好機ヲ得ント欲スルノミ
前年以來本校ニ於テハ書籍館ノ開設アリ又教科中ニ英語學及英吉利
法律書原文講讀ノ課ヲ加ヘタリ之等ノ教科ニ就キテハ本校ト屋ヲ同

ウシ東京大學々士諸氏ノ尽力ニヨリテ成立スル東京英語學校ノ贊翼
勸奨ヲ受クルヲ甚タ多シ又第一年級及第二年級ノ講義録ヲ發刊シ更
ニ教科用英吉利法律書ヲ翻刻シ低價ヲ以テ之ヲ本校生徒ニ授クル
トナセリ是固ヨリ射利ノタメニ非ス射利ハ固ヨリ吾人ノ目的ニ非ス
諸君ハ吾人ヲ以テ英米法律ノ原則ヲ破リタル者トスルカ若シ然ラン
コハ射利ノ一事ハ諸君ノ身ニアルヘシ(笑)本校生徒及講義録購讀者ノ
數ハ殆ト前年ニ倍シ約千二百名ノ多キニ及ヘリ(賞賛)而シテ今本校ハ
曩ニ文部卿ノ發布シタル特別監督條規ニ基キ帝國大學ノ特別監督ニ
附セラレタリ然レモ其實際ノ利益ハ未タ確知スヘカラサルカ故ニ吾
人ハ吾人自家ノ教育方法ヲ保維センカタメニ可成の本choolノ課程變更
ヲ少クスルヲニ力メタリ抑本校ヲ設立セル所以ハ至ク吾人カ普通法
ヲ尊信スルノ深キ故ニシテ夫ノ世ノ流潮ニ誘ハレ一時ノ戲事ニ出テ

タルノ類ニ非ス私ニ惟ミルニ法律ヲ重シ自尊ノ精神ニ富ミ自由自治ノ樂境ニ遊フ開明人民ノ多クハ皆此法ヲ遵奉スルモノナリ而シテ吾人ハ或ハ本邦ニ於テシ或ハ外國ニ在リテ此善良ナル法律ヲ研究スルノ幸ヲ得タリ是ヲ以テ能ク本校ヲ設立スルヲ得タルナリ之ヲ兵ニ譬ヘンニ本校ノ現況ハ軍備既ニ整ヒ組織モ亦頗ル好シト謂フモ蓋シ過言ニ非サルナリ而シテ之ヲ率ヅルニ二十五名ノ講師アリテ千二百人ノ義勇兵ヲ訓練ス他日我國ノ法務ヲ司ルニ當リテハ英米ノ法理ヲ我軍ノ筋骨ト頼ミ野ニ臨ミテ全局ヲ支配スルニ何ノ其レ難キヲカアラン惟フニ既往ニ於テ既ニ成績ノ觀ルヘキアリ加之我親友諸君ノ德義上ノ贊翼アリ此二者ニ獎勵セラレテ能ク撓ムコトナクンハ吾人ノ目的ヲ益高キニ進ムルヲ得テ期スヘキナリ本校ハ舊東京大學ノ學士輩ノ組織スル所ナレハ其地歩ノ最高クシテ眞ニ我國ノ英吉利

法律學校タルニ耻チサルコトハ天下公衆ノ承認シテ疑チ容レサル所ナルヘシ斯ク言ヘハ吾人ノ母トモ稱スヘキ大學ニ對シテ稍過語チ吐クニ似タレト凡兒童カ其父母ニ優ランコトヲ望ムハ情ノ常ナリ支那ノ俚諺ニモ曰ハスヤ笥ノ成育却テ老竹ヨリモ速ナリト戲語請フ之ヲ諒セヨ然レトモ余ハ吾人カ目的志望チ益高キニ進メント欲スルハ固ヨリ其當ナリト信ス(喝采諸君ヨ余ハ祝辭ヲ述フルニ當リ演說否演說トハ稱シ難シ所述(笑)長キニ過キテ多ク諸君ノ時間ヲ費シタリ(否々進メ々々)余ハ今茲ニ謹ミテサーフランシス、プランケット、ハッパールド君、ハンネン判事、大審院長、帝國大學總長、其他今夕來臨チ辱ウセル貴賓諸君ノ健康ヲ祝ス附ケテ言フ東京府知事ハ今夕所勞アリ蓋シ天氣好カラサルノ致ス所歟狂駕ノ榮ヲ賜フコトヲ得ス余ヤ深ク之ヲ憾トス

次ニサーフランシス、アル、プランケット閣下ハ左ノ答辭ヲ述ヘタリ

今夕參會ノ諸賓ニ代リ謹ミテ答辭ヲ呈ス増島君等ハ吾人ノタメニ懇
 篤ナル祝辭ヲ述ヘラル吾人深ク之ヲ感謝ス殊ニ過クル十二箇月間ニ
 於ケル英吉利法律學校ノ事業并ニ進歩ノ狀況ニ就キ甚タ満足ナル報
 告ヲ聞クコトヲ得喜悅ニ堪ヘス既往ノ繁盛ニヨリテ將來ノ進歩モ亦充
 分ニ期シ得ヘシ實ニ此校ノ如キハ能ク日本帝國ノ榮譽信憑ヲ致サシ
 一疑ヲ容レヌ余ヤ其昌盛極リナカラシコトヲ祈ルヤ切ナリ惟フニ今夕
 臨場ノ諸賓モ皆同感ナルヘシ(喝采)前年ハ他事ニ煩ハサレテ諸君ノ祝
 宴ニ列スルコトヲ得ス當時余ハ深ク之ヲ憾トセシカ幸ニ合衆國公使ノ
 臨場アリ能ク其平素ノ雄辯ヲ以テ余カ缺參ノ理由ヲ明ニシ又余ニ代
 リテ諸君ノ事業ヲ贊翼スルノ意ヲ表ヒリ此次又招待ヲ辱ウシテ今夕
 茲ニ參會シ躬親ラ日本英學者等カ此校ノ事業ニ當ルノ熱衷ヲ視頗ル
 喜悅ニ堪ヘス而シテ前年ノ遺憾深カリシカ故ニ今夕ノ喜悅ハ殊ニ甚

シキヲ覺ユルナリ
吾人ハ吾人ノ法律ヲ研究スル日本學生ノ多キヲ喜フナリ、諸君看スヤ
近世人間交社ノ基礎タルモノハ果シテ何ソヤ各人ノ權利自由ヲ安全
鞏固ナラシムルモノハ法律ニ非スシテ其レ何ソヤ凡法律ナキノ社會
ハ紊乱ヲ免レス之ニ反シテ司法ノ綱秩能ク備ハルキハ社會ノ繁榮疑
ナシ吾人ハ只吾人ノ法律ヲ唯一ノ良法ナリト誇稱スルモノニ非ス然
レモ惟フニ法律ハ千種万様ナレモ其究竟ノ目的ニ至リテハ歸スル所
一ノミ英米法律ノ外ニモ善良ナル法律アルヘキハ言ヲ俟タサル事ナ
レモ商工業最盛ヨシテ人々ノ權利最鞏固ナル國々ハ即此英米法律ヲ
以テ社會ノ基礎トナスモノニ外ナラサルナリ諸君ハ英米法律學ニ熱
衷スルモノナリ他ノ學業ヲ修ムルキハ却テ直接ノ利益ヲ收メ得ヘシ
ト見ユル場合之ナキニ非ス斯ル場合ニ遭逢スルモ諸君ハ幸ニ其熱

衷ヲ減スルコトナカレ諸君ハ今諸君カ有スル氣力ヲ以テ益英米法律ノ由來ヲ探リ「アングロ、サクソン」人種ノ永久榮昌ナル根源ヲ推究セヨ、今夕ハ他ニ尙數多ノ演說アルヘシ由テ余ハ茲ニ同席諸賓ニ代リ今參會ノ歡ヲ述ヘ併セテ英米法律ノ原則ヲ此國ニ普及セント力メタル英吉利法律學校カ今日ニ至ル迄ノ成效著シカリシコトヲ賀ス(喝采)

合衆國公使アル、ビー、ハッパード君左ノ如ク演說セリ

英吉利法律學校ノ諸紳士ヨ諸君ハ余ヲシテ日本帝國ノ判事諸君ニ對シ健康ヲ祝スルノ榮ヲ得シメタリ余ハ祝詞ヲ述フルニ先チ英國公使カ余ヲ稱揚セルコトヲ謝ス余ハ今余カ榮務ヲ充タサントスルニ臨ミ余ニ先チテ演說セル諸君ト余ノ後ニ演說スヘキ諸君トノ中間ニ立チ頗ル地位ノ困難ヲ覺ユ蓋シ此困難ハ當局者躬ラニ非サレハ能ク察知スヘガラサルモノアリ惟フニ余カ述ヘント欲スル話題ハ今夕ノ機會ニ

取リテハ廣大ニ過ク殊ニ更稍深カラントスルニ當リテ諸君ノ倦厭ヲ
來タスノ恐アリ然レハ今夕ニ必要ナルハ諸君ノ忍耐實ニ是ナリ幸ニ
玆ニ列席ノ法律家諸君ハ理想的完美ナル司法部ニ對シテ如何ナル種
類ノ祝意ヲ呈スヘキカナ熟知セラル、ナルヘシ余ハ敢テ之ヲ再說ス
日本法律家諸君ハ其専門ノ實務經驗ニヨリ現今日本帝國司法ノ局ニ
當ル判事諸君カ才識節操ノ充分ナルヲ證シ得ラル、ナルヘシ既ニ
斯、ル證明ヲ得ラルヘシトナス以上ハ徒ラニ多辯ヲ費シ時間ヲ空ク
センモ情ナキニ似タリ由リテ大抵ノ事ハ既ニ世ノ公認シタルモノト
看做シテ愚見ヲ開陳セン諸君幸ニ補正ノ勞ヲ惜ムトナカレ
凡善良ナル政府ノ據リテ以テ安チ保スルモノハ其政体ノ如何ニ論ナ
ク才識ト節操ヲ具備スル司法部ニアルヲ論チ俟タス
第一 只時ノ執政者ノ私意專横ニ壓服セラレ、チ常トシテ據ルニ法

律ナキノ民ハ野蠻人種ニ外ナラス野蠻人種ノ國ニアリテハ腕力即權
利ニシテ身体資産ノ保護トハ如何ナル謂ナルカ絶エテ之ヲ知ル者ナ
シ凡一國ノ盛衰興廢ハ法律及司法ノ良否如何ニアルコト史家ノ知ル所
ナリ盛興ノ國ニハ必ス法律ノ美ナルモノアリテ以テ國民ノ則タリ之
ニ反シテ衰廢ノ國ニハ正當ナル法律アルモ之ヲ蔑如シ無知若クハ暴
戾ナル立法者及司法者カ私意專横ヲ以テ公正ノ道ヲ輕ニスルヲ常ト
ス吾人試ニ史ヲ繙キテ之ヲ覽レハ亡國ノ餘燼ニ於テ灼然此事ノ虛ナ
ラサルヲ知ルナリ法律ハ一國ノ主權者カ制定スル舉動ノ規矩ナリ人
民ノ需要及情況ニ應スヘキモノナリ主權者ノ之ヲ制定シタルキハ最
上權ヲ有スルモノニシテ必ズ之ニ服從セサルヘカラス國ノ東西ヲ別
タス時ノ古今ニ論ナク司法者ノ最上ノ職ハ法律ヲ有ノ儘ニ決行スル
ニアリ法律ハ苛酷ニシテ往々弱者ヲ壓制スルコトアリ然レモ其法トナ

リテ存在スル限りハ飽クマテモ之ヲ實行セサルヘカラス法律ノ不正
當ナル所以ヲ示スヘキ最良法ハ之ヲ墨守實行スルニアリ則遂ニハ其
非ノ掩フヘカラサルニ至リ廢止セラル、ノ期アルヘシ左レハ法律家
ノ最要務ハ法律ヲ熟知スルニアリ法廷ニ立チテ法律ニ暗キハ吾法律
ノ罪人ナリ故ニ正直ニシテ無識ナル判事アランヨリハ寧ロ不正直ニ
シテ有識ノ判事アレトハ古來ノ通語ナリ何トナレハ不正直ナル判事モ
其同僚ノ耳目ニ牽制セラレテ究竟正當ナル判定ヲ下サ、ルヲ得スト
雖モ暗愚無識ノ判事ニ至リテハ無辜ノ良民ヲモ保護スルノ道ヲ辨ヘ
サルカクメニ正ヲ失シ冤ニ苦マシムルノ恐アレハナリ日本帝國ノ裁
判官ハ皆能ク其國法ニ通達セラル、ト疑ヲ容レサルコトナレハ言ヲ要
セサルコトナレト法律ノ智識ヲ具ヘテ公正ノ道ヲ失スルコトナクハ司
法部ハ實ニ國家保安ノ基トナルヘシ譬ヘハ國ハ猶船ノ如ク司法部ハ

猶錨ノ如シ錨重ク且固ナレハ怒濤狂瀾何ソ其レ怖ル、ニ足ラン
 第二 法律ノ智識ニ亞キテ必要ナルハ司法ノ純正公貞ナルニアリ才
 識真操ヲ兼備セル裁判官カ司法ノ局面ニ立ツキハ人民ノ權理自由ハ
 常ニ安全ナリ之ニ反シテ汚瀆ノ弊風法庭ニ行ハレ人民ノ自由ト權利
 モ金財若クハ權勢ノタメニ犠牲ニ供セラル、リアルキハ安全得テ保
 シ難シ之ヲ以テ賂ヲ貪リ職ヲ瀆スノ徒ハ古來常ニ人ノ憎惡スル所タ
 リ之ニ反シテ廣大ナル學識ヲ具ヘ榮譽ト節操ノタメニ信憑ヲ全ウシ
 事ニ臨ミテ輒ク動カス以テ能ク無偏無黨ノ節ヲ守ル公正ノ裁判官ハ
 永ク國人ノ愛敬スル所トナリ令名ヲ不朽ニ傳フルヲ得ヘシ然レ正
 徒ニ名聲ヲ求ムルハ俊傑ノ屑トモサル所ニシテ虛譽ハ君子ノ愧ツル
 所ナリ伊蘇普譚ノ中ニ驢ノ獅子皮ヲ裝ヒタル一奇話アリ外皮ハ宛モ
 猛獸ノ如キモ耳邊ノ醜態笑フヘシト云フ虛譽ノ徒モ亦是ノ如キノミ

第三 智識ト節操ニ亞キテ肝要ナルハ勇氣ナリ此三者ヲ兼備シテ司
法官ノ徳初メテ完備セリト謂フヘシ凡裁判官タルモノハ如何ナル人
ヲモ恐ル、コナカレ又知ルコナカレ其訴訟人ニ對シテハ貴賤貧富強
弱ノ別ヲ見ルコナキヲ要ス古來公正ヲ描出スルニ盲者カ不公平ナキ
手ニ衡秤ヲ平坦ニ持テ居ルノ像ヲ以テセリ暴人如何ニ脅迫スルモ白
刃如何ニ閃クモ耳目ヲ閉テ之ヲ意ニ介スルコナキヲ要ス死ヲ見テ
動カズ法ヲ執リテ屈セス之ヲ是司法官ノ勇ト謂フ是即司法ノ職ノ嚴
肅高尚ナル所以ナリ英米兩國ニ於テハ成文ノ憲法ニヨリテ司法部ヲ
獨立セシメタリ以テ此二國ノ國勢ノ固クシテ開進ノ績著シキヲ知ル
ヘシ此故ニ右兩國ニ於テハ國會モ内閣モ皇帝モ能ク司法官ノ職務ニ
干渉スルコト能ハス而シテ裁判官ハ皆品行方正ナル間ハ永ク其職ニ在
ルモノトシ又兩國ノ大法院共ニ憲法ノ文面及精神ニ背クモノアリト

認ムルハ國會ノ議定ヲモ無効ナラシムルヲ得ルモノトス是全ク
 司法部ヲ政治外ニ置キテ賄賂脅迫壓制等ヲ受ケサラシメンカタメナ
 リ往古司法官ノ宣誓中ニモアリタル如ク法庭ヲ恐怖恩愛私情貪慾ノ
 範圍外ニ置クハ法務上ノ最大美事ナリ是ノ如クニシテ眞個ノ大名令
 聞以テ致スヘク是ノ如クニシテ恩威德澤以テ之ヲ國民ニ施キ得ヘシ
 夫ノシセロカミロノ辯護ニ敗ヲ取リタルモ蓋シ此種ノ勇氣ニ乏シ
 カリシカ故ナリロードアルスキンモピット及バルクノ威ニ怖レテウオーレン
 ハスチングスヲ辯護スルノ好機ヲ失ヘリ之ニ反シテロードブローハ
 ムカ高貴ノ威ニ怖レス王公ノ命ニ屈セスシテ不幸ナルカロライン女
 皇ノ辯護ヲ爲シ卓論雄辯以テ衝チ口舌ノ間ニ折セシハ絶世ノ美談ト
 謂フヘシ裁判官カ富貴權勢ニ屈セス貧賤微弱ヲ侮ラス公平無私ノ保
 護ヲ與フルノ勇アルハ實ニ英米司法史上ノ光榮トナス所ナリ司法官

ハ勇氣ヲ要スルコト勿論ナリト雖モ余ハ其猛威ヲ張ルノ必須ヲ見サル
ナリ威嚴ハ却テ人ヲ懷クルコト能ハス而シテ温和ハ能ク人ノ心ヲ服セ
シム忿怒ノ唇ハ公正ノ聲ヲ發スルコト稀ナリ法ヲ執リテ嚴肅動カサル
コト磐石ノ如ク而モ聲色怡々トシテ人之コト接シテ恐怖スルコトナキモノ
アリ蓋シ此ノ如キハ人ノ生命自由ニ關スル裁判職ノ美德ト謂フヘキ
ナリ法庭ニ於ケル勇氣ニ就キテ一奇話アリ多年前余ハ曾テ遠キ西方
ノ國ニアリ多年前ト云ヘハ頗ル老年ノ如ク聞ユレト余ハ今尙壯年ニ
過キサルナリ(笑)茲ニ諸君ノ記臆シ置カサルヘカラサルコトアリ吾人ハ
吾人ノ血脈中ニ英吉利人ノ血ヲ受ケ居ルモノナリ但シ此血ハ今ハ頗
ル改良セリ(笑)吾人ハ英人ト同一ノ文學及法律ヲ尊重スルモノナリ又
英人ト同様、否、異様ノ淑女ヲ愛スルモノナリ(笑)又夫ノ世界中英人ノ足
跡ノ達スル所ニ聽カサルナキ同一ノ英語ヲ好ムモノナリ以上遠キ西

深ク怪ナムラ勿レ三十年前余カ年尙甚少カリシ時余ハ遠キ西方ノ地ニ於
 テ代言人トナリタルヨアリ其時法庭ニハ毛衣ヲ着シ皮鞋ヲ穿テタル
 人裁判長トナリテ殺人犯ノ訴ヲ聽キ居レリ罪人ノ辯護人ハ頗ル有爲
 ノ士ト見エシカ罪人ハ狂人ナリキ聽テ審理ノ後被告ハ敗訴ト決セラ
 レタルヲ以テ再應ノ審理ヲ求メタルニ直ニ聞届ケ難キ旨ヲ達セラレ
 タリ爰ニ於テ被告ハ大ニ忿怒シ其腰間ヨリ山刀ヲ拔キ出シテ君ハ我
 請求ヲ拒絶セリ然レモ我ニハ我自家ノ法アリト言ヒシニ裁判官モ亦
 拳銃ヲ取り出シテ辯護人ニ向ケ汝ニ法アリト云フ好シ然レモ我此拳
 銃ハ即憲法ナリ(笑)罪人ト辯護人ト併セテ人ヲ獄ニ繋ケヨ兩人共ニ之
 ナ刑スヘシト言ヘリ粗暴ノ勇モ亦甚シカラスヤ別ニ又一奇話アリ余
 カ尙淺學ニシテ面モ充分ニ法律ニ通シタリト自認セル頃裁判官ニ向
 ヒ余カ友人ニ一耳聾スル者陪審官ニ充テラレタルヲ告ケタリ裁判

官余ニ問フテ曰ク我弱友ヨ足下ノ告クル所ハ夫ノ陪審官ノ事カ曰ク然リ裁判官又曰ク一耳聾スレハ他ノ一耳ヲ以テ聽ク何ノ不可カラント(笑)余ハ之等法庭ニ於ケル勇氣及滑稽ノ奇話ヲ余カ友人ハンネン判事ノ貴聞ニ達セント欲スルナリ遠キ西方ノ地ニハ法庭ニ於ケル勇氣ノ美談頗ル多シ英國ニアレ米國ニアレ若シ代言人及裁判官ヲ除キテハ愛國自由ノ思想ト法律及人文發達ノ著シキ實蹟ヲ示スヘキモ少カルヘシ

余ハ今此帝國ノタメ又列席ノ判事及代言人諸君ノタメニ法律ノ進歩シタル實蹟ト泰西ニ則リテ憲法の政府ヲ設クルノ氣運ニ向ヘルヲ祝シ又吾人カ舊傳ノ普通法ヲ研究スルノ盛ナルヲ賀スルナリ斯ク吾人ニ摸倣スルヲ多クシテ普通法ヲモ我ニ取ラントスルニ至リタルハ實ニ英米兩國ノ榮ト謂フヘシ然レモ之ヲ祝シ之ヲ賀スルト同時

ニ余ヤ敢テ此帝國ノ判事ニ一言ヲ呈セン抑泰西ノ司法制度カ尊重セ
 ラル、所以ハ主トシテ判決ノ一様ニシテ不動確固ナルニアリ終審法庭
 ハ法律ヲ判定ス其判決ハ證錄シテ其下格ノ法庭ニ下スキハ確定動カ
 スヘガラサルモノトス即其國ノ法律トシテ遵據セラル、モノナリ孰
 ノ國ニアレ判決ノ不確ハ其司法上ノ大患ニシテ實ニ怨スヘガラサル
 ノ弊害ナリ泰西諸國ニ於テハ法律ノ時代是ノ如ク既ニ久シク法律先
 例ノ累積セルコトモ亦是ノ如ク多シト雖モ判決ニ遵據セヨトノ語ハ常
 ニ法律上ノ確言タリ
 余ハ最末ニ尙一言ヲ加ヘンニ此帝國カ充分ニ獨立ノ地歩權勢ヲ占ム
 ルノ氣運ニ向フニ際シ遂ニハ其司法部ヲ以テ人々ノ權利ヲ保護スル
 ノ最要具トナスノ日アラント泰西諸國カ翹望ニ堪ヘサル所ナリ此帝
 國政府カ其司法官ヲ優待厚遇シテ之ヲシテ窮乏貧苦ノ難況ヲ脱セシ

メ貪慾ノ襲ヲ受ケサラシメン_ト是亦開明諸國ノ切ニ祈冀スル所ナリ
願ハクハ此國ノ各法庭ヲシテ内外諸國ノ法律ヲ熟知セシメ此英吉利
法律學校ヲシテ夫ノ累世英國人及其子孫ノ權利及自由ヲ保維シ來リ
シ普通法ニ據リテ以テ高尙優美ノ地歩ヲ占メシメ又願ハクハ此國ノ
司法部ヲシテ獨立固安ノ域ニ立タシメン吾人カ地球上英語通用ノ
人民ニ代リテ述フル所ノ祈請實ニ是ノ如シ勉メヨヤ諸君厚報將來ニ
アリ_マグナ、カルタ_ノ發表以來英國ノコーク、ハイルドウ_ヰク、マンズ_ヰフ_ヰト
ルド、エルドン、バルク、又我合衆國ノマールシヤル、ストーリー、ケント、ダニー等
ノ名聲ハ王公貴權ノ名ノ世ニ忘ラル、ニ至ルモ益々_々 万古ニ轟キテ永
恒滅スルコトナカルヘシ余ヤ今謹ミテ日本判事諸君ノタメニ祝意ヲ表
ス願ハクハ諸君ノ才學節操ヲ以テ將來永ク法律ノ威嚴ト此帝國ノ昌
榮ヲ致サシメン_(喝采)

次ニ判事岡村輝彦氏ハ左ノ英語演述ヲ爲セリ

余ハ同僚及自家ノタメニ謹ミテ合衆國公使閣下ノ日本判事等ニ賜ヒ
タル祝詞ヲ謝ス余ハ又此機會ニ乘シテ敢テ數言ヲ述ヘント欲スルナ
リ請フ幸ニ之ヲ諒セヨ

抑我國開港ノ舉アリシヨリ以來吾人ハ常ニ歐洲諸國ノ文運ヲ我國ニ
致サンコト切望シ幸ニ既往ニ於テハ此熱望ノ空シカラサルコト得タ
リ然レモ獨リ法律ニ至リテハ進歩ノ速度未タ期望ヲ充タスコ足ラサ
リキ

今ヤ漸クニ人皆此困難ナル法律進歩ヲ計ラントスルノ時勢ニ向ヘリ
此目的ヲ達セント欲セハ法庭ノ改良ナカルヘカラサルヤ論ヲ俟タス
ト雖モ法庭ヲ改良セント欲セハ先ツ代言人社會ヲ改良セサルヘカラ
ス諸君モ知ル如ク夫ノ司法最善長ナル英米兩國ニアリテハ常ニ代言

人ト法庭ト彼此ノ進歩相匹當適應スルヲ見ルナリ然レハ今日日本ノ
司法官タリ又代言人タル者ハ此匹適チ生スルノ目的ヲ以テ法學ニ就
ク少壯輩ヲ養成セサルヘカラス余カ見實ニ是ノ如シ此ヲ以テ友人増
島君カ本校設立ノ舉アルニ當リ余ハ敢テ翼賛ノ微力ヲ致セリ本邦法
庭及代言人ノ關係猶英米二國ニ於ケルカ如クナルノ日遠キニアラサ
ルヘキコ余カ固ク信シテ疑ハサル所ナリ(喝采)

次ニ評定官松野貞一郎氏ハ左ノ英語演述ヲ爲セリ

諸君ヨ吾人ハ新年ノ初メニ英吉利法律學校ノタメニ祝宴ヲ開クヲ常
例トセリ然レモ余ハ今法律ノ業務ノタメニ祝詞ヲ述ヘント欲スルナ
レハ此常例ニ就キテ敢テ多辯セス

近來法律業ノ進歩ノ蹟着々觀ルヘキモノアリ夫ノ世人カ頓ニ之ヲ尊
重スルニ至リタルハ即充分ノ一證ナリ尙進ミテ一證ヲ舉ケンニ我英

吉利法律學校其他ノ同種ノ學校ニ入り他日法律ノ業ニ就クノ準備ヲ
 ナス者日一日ヨリ多シ是法律業ノ程度ノ進歩セルカタメニ非スシテ
 何ソヤ

吾人ハ今合衆國公使閣下ノ高論ニヨリ法庭ノ重要ナル所以ヲ拜聽ス
 ルヲ得タリ余ハ又之ニ一言ヲ加ヘント欲ス司法官ト代言人ハ猶車
 ノ兩輪鳥ノ兩翼ニ於ケルカ如ク彼此相待テ互ニ輕重ナキモノナリ而
 シテ一國ノ安寧福祉ヲ計ラント欲セハ先此二者ニ平衡ノ進歩アラ
 ンヲ要スト(賞賛)然レハ我國運ノ進歩ヲ計ルノ手段ハ我代言人ノ地歩
 ヲ進ムルヨリ良キハナカルヘシ余ヤ請フ今代言人諸君ノタメニ健康
 ナ祝シ其昌榮ヲ祈ラン(喝采)

次ニ合衆國總領事クレートハウス氏ハ左ノ如キ答辭ヲ述ヘタリ
 余ハ法律ノ業ヲ執ルモノナレハ今余ニ先チテ演述セラレタル紳士カ

法律ニ關スル高論アリタルヲ聽キ頗ル喜悅ニ堪ヘス余ハ今夕法務ノ事ニ就キテ敢テ多言ヲ費サス殊ニ此祝詞ニ對シテ應答スヘシトハ余カ豫期セサル所ナリ若シ余カ豫期セル如ク他ノ祝詞ニ對シテ答謝セントアレハ余ハ充分ニ用意整ヒ居ルナリ(笑)余カ今答謝スヘキ祝詞ハ今夕提出セラレタル祝詞ノ中最範圍ノ廣キモノナリト信ス何トナレハ只裁判官ノミナラス制法者モ亦皆其範圍中ニ加ハルヘケレハナリ余ハ今此制法官司法官代言人等ニ適應スヘキ祝詞ニ答謝スルニ當リ自ラ此祝詞ノ範圍内ニ加ハル者ト看做スヘシ(賞賛)諸君ヨ試ニ史ヲ繙キテ古今ノ事蹟ヲ通覽セヨ凡國民ノ偉績權勢ノ度ハ古來皆法律ノ程度ニヨリテ量ラレサルモノナシ故ニ勇將ノ勳ヤ實ニ偉ナリ雄國ノ權ヤ實ニ重シト雖モ其偉ナリ重ナリト稱セラル、所以ハ法律ヲ制定シ解釋判定シ實行スルニヨリテ然ルナリ而シテ之ヲ

爲ス者ハ實ニ法律家ニ外ナラサルナリ(喝采)試ニ英米兩國ノ實蹟ヲ看
 ヲ吾人米國人ハ名將勇士ノ多ク母國即英國ニ輩出セルヲ知ルナリ又
 獨立承認ノ前ニアリテ母國人ト共ニ偉業ヲ奏セルヲアリ(喝采)吾人ハ
 英國海員カ功名ヲ擧ケタル者多キヲ知リ英國人ト共ニネルソンノ死
 ナ悲ミ又其捷ヲ賀セリ然レモ英國カ其今日ノ強盛ヲ致セルハ其法律ノ
 効績ナリアルフレッド王及ジョン王ニ咫尺シテ夫ノ「マダナ、カルタ」ヲ請求
 セル諸侯等ノ功ナリ英國ニハマルボロー、ネルソン、ウリングトン等ノ
 如キ英將出テタリト雖モ夫ノ全世界ノ半ニ普及セル英國普通法ヲ編
 成セル者ハ實ニ其判事其他ノ法律家ナリ余ハ敢テ軍功ヲ少ナリトナ
 ス者ニアラサレモ惟フニ將ト言ヘハ戰亂ノ意味ヲ含蓄ス而シテ兵ハ
 凶器ナリ破壊ノ具ナリ之ニ反シテ法律ハ平和ノ具ナリ軍ハ暴ヲ意味
 シ荒廢ヲ意味ス之ニ反シテ法律ハ平和ノ支配、各人權利ノ保維ヲ意味

ス夫ノ雄ヲ全天下ニ稱シテ世界ノ帝權ヲ掌握セル羅馬モ其軍兵ノ威
其戰勝ノ利今將何處ニカアル獨リ其法律家カ編成セル法律ニ至リテ
ハ依然トシテ廣ク開明諸國ニ行ハル頃時佛國ニ不世出ノ英雄アリ兵
ヲ用キルヲ神ノ如ク百戰百勝遂ニ歐羅巴ノ半ヲ掌握シテ一世ヲ睥睨
ス其巨財ヲ蕩盡シ腥血ヲ流亡セルヲ其レ幾干ソヤ而シテナポレオン
一世ノ戰功ノ蹟今何處ニカ之ヲ見ン獨リ此英才ノ力ニヨリテ成レル
ナポレオン成典ハ尙依然トシテ存シ開明諸國ノ尊崇スル所タリ又現
時ノ獨逸ヲ看ヨ其將フ^{オン}モルトケハ實ニ一英將ナリ功績モ亦少カラ
ストス然レモ獨逸全帝國ノ運命ヲ掌ル者ハ即法律家ノ一人ナルビス
マルク侯其人ナリ米國ニハ功將勇士ヲ出セルヲ固ヨリ少カラスト雖
モ法律ノ大家ヲ出セルヲ亦實ニ夥シトス何トナレハ僅々三百万ノ人
口ヨリ六千万ニ増加セル如キ進歩ノ速ナル國ニアリテハ法律ヲ最重

シトスルカ故ナリ

余ハ曾テ此英吉利法律學校ノ生徒ニ講演セルコアリシカ其時頗ル生徒ノ品行ノ良キニ感セリ從來屢學校生徒ノ摸樣ヲ實見セルコアリシカ此時ノ如ク二三百ノ生徒カ一齊ニ注意ノ深ク活潑熱心ナル有様ハ余カ未ダ曾テ他ニ見サル所ナリ私ニ思フニ此生徒ハ皆驚嘆スヘキ良好ナル機會ニ遭逢シ而モ皆能ク此好機會ニ適應スルニ足ルモノナリト

余ヤ初メ私ニ感ヘルコアリ三千八百万ノ人民皆満足シテ其政府ヲ奉戴ス政治ノ善良ナルニ非サレハ何ソ能ク是ノ如キヲ得ン政治既ニ是ノ如ク完美ナル國ニ外國ノ原素ヲ入ル、モ何ノ用カアラント此學校ノ生徒ヲ見ルニ及ヒテ始テ知ル諸君ハ眼前ニ最大好機ヲ有シ夫ノ普通法及民法ノ萃ヲ拔キ之ヲ此國ノ法律習慣ニ適應セシメナハ將來最完

○第一科教課及受持講師姓名

○ハ参考科
○ハ科外

- 一 法學通論 每時週 法學士 山田喜之助
- 一 契約法 全二時 法學士 土方寧
- 一 私犯法 同上 法學士 奧田義人
- 一 親族法 全一時 法學士 山田喜之助
- 一 日本刑法 全上 法學士 岡山兼吉
- 一 代理法 全上 米國法律學士 菊池武夫
- 一 動產委託法 全上 法學士 元田肇
- 一 組合法 全上 法學士 松野貞一郎
- 一 英語學 全上 菅沼達吉
- 英國刑法 全上 法學士 澁谷惟忠
- 羅馬法 同上 法學士 坪井九馬三
- 論理法 全上 法學士 植村俊平
- 判決例 同上 法學士 駒井重格
- 理財學 同上 法學士 高橋捨六
- 第二學年 每時週 法學士 伊藤梯治
- 一 賣買法 同上 法學士 山田喜之助
- 一 不動產法 同上 法學士 山田喜之助
- 一 動產法 同上 法學士 山田喜之助

- 一 財產法 同上 法學士 增島六一郎
- 一 證據法 同上 法學士 岡村輝彦
- 一 會社法 同上 法學士 植村俊平
- 一 流通證書法 同上 法學士 土方寧
- 一 商船法 同上 法學士 高橋健三
- 一 治罪法 同上 法學士 松野貞一郎
- 一 訴訟法 同上 法學士 增島六一郎
- 一 刑擬律擬判 同上 法學士 菊池武夫
- 一 判決例 同上 法學士 植村俊平
- 一 英語學 同上 菅沼達吉
- 米國法 津同上 米國法律學士 シドモ
- 刑民訴訟演習 同上 工藤繁人
- 法理學 同上 法學士 奧田義人
- 成法理論 同上 法學士 高橋健三
- 保險法 同上 法學士 伊藤梯治
- 國際公法 同上 法學士 植村俊平
- 第二學年 ばりてさる 法學士 增島六一郎
- 一 財產法 同上 法學士 中橋德五郎
- 一 破產法 同上 法學士 中橋德五郎

一 訴訟 法同上ばりまざる 士増島六一郎
 一 保險 法同上法學士 伊藤 悌治
 一 衡平 法同上法科大學 卒業生 戸水 寛八
 一 沿革法理學同上ばりまざる 士増島六一郎
 一 法理學同上法學士 奥田 義人
 一 羅馬法同上法學士
 一 國際公法同上法科大學 卒業生 植村 俊平
 一 國際私法同上法學士 山田喜之助
 一 判決 例同上法科大學 卒業生 植村 俊平
 一 刑擬律擬判同上米國法律學士 菊池 武夫
 一 英語 學 同上法科大學 卒業生 吉田直太郎
 一 憲 法同上 植村 俊平
 一 行政 法同上法學士 江木 衷
 一 米國法律同上米國法律學士 シドモール
 一 動產差押法 同上ばりまざる リッソフフィールド
 一 訴訟演習同上 三 阪 繁人
 一 第二科教課及受持講師姓名 工 藤 則勝
 一 第一學年
 一 英法註釋ブルーム氏 每週 法學士 山田喜之助

マークビー氏
 ● 法律論 綱同上 法學士 馬場 愿治
 アンソン氏
 一 契約 法同上 法學士 松野貞一郎
 スミス氏
 ● 契約 法同上 同 人
 アンダーヒル氏
 一 私犯 法同上 米國法律學士 菊池 武夫
 アチソン氏
 ● 私犯 法同上 同 人
 ストリー氏
 一 代理 法同上 同 人
 ストリー氏
 一 動產委託法 同上 法學士 元 田 肇
 ケント氏
 一 親族 法同上 法學士 山田喜之助
 ホロック氏
 一 組合 法同上 法學士 松野貞一郎
 スミス氏
 ● 訴訟 法同上 法學士 澁谷 懺爾
 ハリス氏
 一 英國刑法 法同上 同 人
 スミス氏
 ● 商 法同上 法學士 伊藤 悌治
 テラー氏
 一 法律原論 同上 法學士 藤田隆三郎
 ゼボン氏
 ● 論 理 學同上 法學士 坪井九馬三

萬國法律週報發行廣告

每週金曜日出版●一冊定價金四錢五厘●八冊豫約前金三十貳錢●十六冊同六拾錢●三拾二冊前金壹圓八錢●六十四冊同壹圓九拾錢●但東京區外并各地方遞送ハ別ニ一冊ニ付郵稅壹錢宛申受ケ候●郵便切手代用ヲ禁ス

主筆 英吉利法律學校幹事兼講師 法學士 正七位 渡邊安積

今ヤ我日本帝國ハ條約改正ヲ決行シ全國ヲ開放シ外人ノ雜居ヲ許シ裁判權ヲ恢復シ内外人ヲ同ハス一律ニ我國法ヲ以テ之ヲ處セントス是レ實ニ我國ヲシテ文明國ノ列ニ加ヘ眞正獨立ノ一帝國タラシムル者ニシテ我國民タル者各應分ノ力ヲ出シテ以テ國家ニ盡スヘキノ期ハ抑モ今日ヨリ急且切ナルハナシ就中法律學ヲ以テ己レカ職トスル者ニ至リテハ須ク其技能ヲ盡シ一方ニ於テハ我國法律ノ改良ヲ補翼シ他ノ一方ニ於テハ同胞三千七百萬人ヲシテ法律上ノ智識ヲ涵養セシムルコトヲ勉メサルヘカラス法學士渡邊安積先生大ニ茲ニ慨スル所アリ英吉利法律學校諸氏ノ補助ヲ借り萬國法律週報ヲ發行シ以テ聊カ前述ノ本分ヲ盡サントスルノ舉アリ乃チ本店ニ於テ之ヲ發行シ廣ク國內ニ頒布セント欲ス

明治十九年十一月

萬國法律週報發行所

法律書店 錦 水 堂

萬國法律週報廣告

今般萬國律法週報發兌候ニ付校
外生諸君ノ爲メ錦水堂ト特約ヲ
結ヒ八册前金二十四錢ヲ以テ賣
渡シ候但シ東京區外ハ一册ニ付
郵税金一錢ヲ申受ケ候

萬國法律週報第十二、十三號出版セリ
第十二號目次○萬國公法理論(イースト
レーキ君)○私擬判事登用試驗答案(藤井
乾助)○佐野氏ノ駁論ニ答フ(星野操)○攻
法會討論筆記○雜件●第十三號目次○攻
通罪論附山田法學士ノ意見(畔上啓策)○
占有ノ何物タルコトヲ論シ併セテ住ノ江
氏ノ惑ヲ解ク(佐野春五)○鼠ノ裁判(西澤
弘道)○判決例○攻法會討論筆記○雜件
東京神田區神保町壹番地
錦水堂

第十九號總丁數七十六頁ヨリ直チニ八十
一頁ニ移レ凡此間敢テ脱紙アルニアラス
●正 誤
第十二號組合法九十一頁七行目ニ可

カラスハ「可シ」ノ誤植
第十九號刑法中絶體トアルハ絶對ノ誤植

法學士山田喜之助先生著
英親族法
洋裝美本全壹册
實價金九十五錢
郵稅二十六錢

親族法ハ夫妻親子後見人被後見人等ニ關
スル一切ノ法理ヲ網羅詳論スルモノニシ
テ所謂身分法ト云フモノナリ而シテ本書
ハ特ニ注意シテ家族ノ財產制度ヲ反覆叮
嚅ニ説明シ英米古代習慣ヨリ現行法ニ論
及シタレハ方今社會的ノ論議ノ盛ナル
時ニ當リテハ獨リ法律家ノミナラス我日
本國ノ社會ヲ再造シテ歐米ノ如クナラシ
メントスルノ志士ハ希クハ潛心熟讀取捨
スル所アルヘキナリ

東京日本橋區久松町十五番地
博文堂
發兌書肆 原田庄左衛門

法學士高橋捨六先生著

法學士山田喜之助先生著

法學士高橋捨六先生著

英米身分法

洋製美本全一册
定價九拾錢

十月廿五日發兌

身分法とは一に親族法とも稱し婚姻離婚を始め夫婦親子後見人及び主人奴僕等に關する法理を網羅詳論せるものなり殊に本書の高橋先生一に専修學校の教科用に供せんが爲め汎く英米の法典を參照し章を分て節とし節を分て則とし專ら簡易明解を主とせられたる著述なれり恰も一部の法典を見るに異ならず故に法律に志すの人の勿論苟も親たり夫妻たり後見人たる身分ある人の熟讀し賜ふべき良書たり尙購讀者諸君の便宜を計り目錄書并に見本を調製し置たれば左店の中へ貳錢郵券寄送次第進呈す

英吉利法律學校
教科書賣捌所

京橋區銀座四丁目

發賣所

博聞社

錦水堂

法學士山田喜之助先生著

增訂英國私犯法

第三版美裝洋本
全一册
定價七十五錢

英國私犯法ハ英米法律ノ精華ニシテ民事上ニ於ケル吾人ノ權利義務ヲ詳論シ損害賠償ノ軌範ヲ示シ他ノ諸種ノ法律ニ比スルニ原則ノ類最モ多ク巨重要ナルモノニシテ法律ヲ學フ者先ツ此ヨリ悟入シ以テ法律思想ノ根底ヲ培養セサルヘカラス羅馬法律佛蘭西ノ如キハ私犯法ナキニ非スト雖モ之ヲ一大法類トシテ精覈シタルモノナシ此編ハ則チ其遺漏ヲ補フモノニシテ向キニ大學法學部專門學校英吉利法律學校等其無數都鄙ノ官私法學校ノ教科用書ニナリタルヲ今般增訂ノ上第三版ヲ發兌スルニ至レリ著者ニ於テ非常ノ注意ヲ以テ前版ノ誤謬ヲ正シ有益ノ材料ヲ增加セラレ活版印刷モ亦甚ク鮮明ナリ江湖ノ法曹一本ヲ購フテ座右ノ珍トナシ玉ヘ

東京京橋區三十間堀一丁目

發兌書舖

九春堂

法學士渡邊安積講義

第五編 定價金拾錢 郵稅金貳錢

第一、四、六、七、八、九、十一編 各八錢ツ、

第二、三、五、十、十二、十三編 各拾錢ツ、

新シク最モ精覈ノモノニシテ英國大學校

我帝國法科大學及英吉利法律學校等ニ於

テ教課書トナス者ナリ本書ハ慣習法平衡平

法制定條例等ノ中ヨリ契約ニ關スル規則

ハ悉ク網羅シ英國現行法ハ一モ洩ス所ナ

シ●本書ハ先キニ出版ニ着手シタル以來

大方江湖諸君ノ愛讀ヲ辱シ許多ノ冊數ヲ

賣盡シタルニ不幸ニモ講義者事故アリテ

久シク中絶ノ姿ニ相成リ愛讀諸君ヨリ頻

リニ督促ヲ蒙リ恐縮ノ至リニ堪ヘス然ル

但初編ヨリ御入用ノ御方へハ全部取揃へ

神田區神保町一番地

錦水堂

廣告

本校幹事法學士渡邊安積儀病痾療養ノ爲メ熱海ニ入浴中本月廿四日死去致候ニ付此段校外生諸君ニ告ク

明治二十年二月

英吉利法律學校

明治廿年二月廿六日

(定價金貳拾錢)

持主 增島六一郎

印刷人 大谷木備一郎

編輯人 澁谷髓爾

發行所 神田區錦町貳丁目貳番地 英吉利法律學校